



和漢朗詠集註

火



卷第三

三秋一 早秋二 夕三 秋真六 秋晚八 秋夜八 八月十五夜月十
月 齒 宵九 宵十 菊六 菊三 宵三 宵六 露花七 秋共 菊七
桂共 前載三

卷第四

紅葉嘉葉一 落葉二 雁三 雁四 雁五 雁六 雁七 雁八 雁九 雁十
露十一 霧十三 持衣十三 初冬五 冬夜十六 歲暮十七 炉火十七 霜十九 雪二十 氷春水三
春水 霰共 佛名共

和漢朗詠集註卷第三

秋 立秋

蕭颯涼風與衰髮誰教計會下時秋

立秋日登樂遊園白

此詩文集第十九ニアリ。ハ秋風ト我老髮トヲハ誰ノ人カゾ合テ此
秋ノ立時ニカクアラシムルト云ナリ。今日不知誰計會トイヘル風情
ナリ。蕭颯ハ秋風冷キ貞ナリ。文集ニハ誰教同會下時秋トアリ。又
案スルニ此句不調聲。謂颯ハ他衰ハ平。文集詩躰此例多也。然而此
句尤幽玄ナリ

鷄漸散間秋色少鯉常趨處晚聲微

於菅師匠舊亭賦下葉落庭時詩保胤

此詩註於菅師匠舊亭賦トアリ。菅師匠トハ菅三品文時卿ナリ
保胤ハ文時卿ノ弟子ナリ。卿カクシテ後カノ舊亭ニシテ文會アリ
ケルニ作ナリ。題ノ心ハ秋ノ始ヲツカニ一葉モミチシテ庭ニ落忘也
上句ニ鷄散間トハ庭ヲツクレリ。鷄ハ庭ニ遊テ物ナレナリ。秋色少ハ



紅葉ノ一葉ノ心ナリ。下句鯉トイフハ孔子ノ子ナリ。カレが生スル時人
 鯉ヲ送リケル。仍其子ヲ鯉ト名メタリ。孔子家語ニ見エタリ。常
 趨處上庭ヲ作り。彼孔子ノ子鯉庭ヲワリリスキテ。父ノ孔子ニ
 ミケリ。孔子曰詩ヲ學ビタリヤ。鯉答曰タシ孔子曰不學詩者以
 モノイフ事ナカレ。鯉リゾヒテ詩ヲニナゲ。又云礼ヲニナゲタリヤ。答テ
 曰タシ。孔子云ニナヒスハ以テタツコトナカレ。鯉退ヒテニナフト云
 論語ニ見エタリ。父ノ教ヲ庭訓ト云事ハコレヨリ始ルナリ。晚聲ハ
 ヲラベニ木葉ノ千九聲ナリ。微トハ少キナリ。一葉ノ意ナリ。保胤ハ賀
 茂忠行ノ男法名寂心。一説鷄漸散ハ楓ヲ鷄冠木ト云ハ楓也
 秋さねとめあそまやうふんえのどと風乃とくふぞかろくせむのぬり
 古今集詞もふ。秋立日くあつとあり。新撰万葉下ハあつとあり
 とあり。秋立ニ云まやうふそあまのつとを略してまやうふとあり
 まやうふといつ詞をまやうふといつた。新撰万葉あまやうふやう大略同

夏至後第三庚日
 初伏立秋後第一庚
 日為末秋伏者金
 兼伏藏之日也
 初學記送夏至後
 第三庚為初伏四庚
 為中伏立秋後為初
 庚為後伏

漢乃多哉用あはれあまのつとを略してまやうふとあり
 とあり。秋立ニ云まやうふそあまのつとを略してまやうふとあり
 まやうふといつ詞をまやうふといつた。新撰万葉あまやうふやう大略同

但喜暑隨三伏去不知秋送二毛來早秋 荻六白

此詩文集二十七ニアリ上句ハ三伏トハ上ノ註ニナリ。下句ニ二毛トハ
 古事ナリ。昔潘安仁ト云レ人形ヲ世ニ勝タリシガ。晋十四年ノ秋
 年卅ニナリシニ初ニ鬢ニシラカノ二筋生タリシコトヲ。秋興賦書
 タリシヨリ。卅ニヲ二毛ノヨヒト云ナリ。文選註ニ見エタリ。今詩ノ心ハ
 三伏ノ過行ニシタカヒテ夏ノアツサノサルトヲノミヨロコビテ。其
 日月ノ過テ。秋ノ久ニツケテ髪ノ白ク成テ年ノユクコトヲカヘリ

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多淮南子ニアリ

此詩可書也古説ニ兩點アリ。一ニ少年ノ長乞巧スルコトヲヨリ
乞巧トハ彼兒童ハ裁詩女郎ハ呈巧ト云コレナリ。願絲トハ五色ノ
糸ヲ竿ニカケテ星ニ手向ルコレモ乞巧ノ具也。子カヒノイト、
云ナリ。二星ニ子壽ナドヲ願フ其願ノ心緒ヲフルトナリ。詩ノ
心ハ世ノ少年ノ行末長ク乞巧スルコトヲオモヒエタリ。其故ハ此
竿上ノ願絲多キニツケテト云ナリ。竿上ノ糸ニ長キト云字ヲカ
テミルベキナリ。又少年ニシテ長ク乞巧セシコトヲヨム時ハ吾少年
ノ時末カケテ乞巧シタリシコトヲ。此今モカク願絲ノ多キニツケ
テオモヒエタリトナリ。壽ナガキヲイヘルナルベシ古今集哥ニ七
夕ニカシツルイトノウチハヘテトシノ緒ナガクコヒヤワタラシ此心ニヤ
二星適逢未叙別緒依依之恨五夜將明頻驚涼風颯颯之聲

代牛女情羨更 是ハ文粹弟八ニアリ。牛女トハ牛牽牛也。ヒコ
詩席小野羨枝。ボシナリ夫ナリ。女ハ織女ナリ。七夕ナリ妻ナリ。是ヲ二星ト云。桂
楊城ノ武丁ト云人。仙道ヲ得タリシカバ其弟ニ語テ曰。七月七
日ニ織女河ヲ渡ル事アリト云ケレバ其弟問云其ハナニシテ渡
ゾ。答テ曰織女トハ夕牽牛ニ會ニタメニワタルナリ云。是ヲ世ニ
夕ナバ夕ヒコボシニアフト云ナリ。續齊階記ニ見タリ。二星適逢トハ
一年ニ二度アハナリ。別緒トハ別離ノ心緒也。依依トハヨリヨルナリ
互ノ何ニヨリカニヨリノウラミヲモイマダノベツクサズトナリ。五夜ハ
五更ナリ曉ナリ。五更ハ戌時ヨリ寅時ニテヲ五更ト云也。颯颯トハ
風ノ聲也。夜ノアケントスル時風吹音ニ驚マテ。夜ハ既ニアケタルニ
コソト思フ意ナリ。羨枝ハ小野篁ノ孫ナリ

露應別淚珠空落垂是殘粧髮未成代牛女情
是ハ菅家文章五ニアリ。曉露ノ落ヲ是ハ七夕ノ別ヲ惜ム淚ノ珠

ニテアラント云ナリ。別ノ涙ノ珠ニテオツル事ハ本文也。較人ト云テ水中ニスモノアリ。亦ハ淵客トモ云フ。水ノ中ヨリ出テ人ノ家ニヤドリ。日ヲ重テウスモノ。イトイミギキヲ織テ。市ニ出シテウラセケリ。サテワカル、時主ニ器ヲコヒテ泣テ珠ヲ出シテ。盤ニテアタヘタルト云コト。博物志ニ見タリ。珠空落ト云空ノ字此句眼目ナレシ。下句ノアレタノ雲ノ空ニタナヒキタルヲ。是ハタナハタノ思ミタレテ。ミツラフモスレテ打乱タル髻カト云ナリ。殘粧ハヨソホヒノコレテ未調サマナリ。星ノウナレ故露ヲ涙ニ比レ雲ヲ髻ニ見ナレタマヘルナリ。

風從昨夜聲彌怨露及明朝淚不禁

代牛女惜曉 後江相公

此詩モ牛女ノウナレバ。風ノ聲ヲウラヌリトイヒ露ヲ淚トイヘリ。上句從昨夜ハ已ニ相見シト思ヨリ。カ子テウラムル心ノ催スサマナリ。下句及明朝ハワカル、期ニ及ニテノ心ナリ。淚不禁ト淚ノ

ヤニス心ナリ。後江相公ノ朝綱卿從四位下大江玉淵ガ息天徳元年薨七十二。相公ハ參議ノコトナリ。江ハ大江氏ナリ。

去夜曳浪霞應濕行燭浸流月欲消

七夕金媛渡河 橋詩 菅三品

是又七夕ノ詩ナリ。題ニ婿トイフ。ヨソホヒツクロヘル心ナリ。上句去夜ト七夕ノ去レ時ノ夜ナリ。天河ニカスミノタナヒケルヲ。タナハタノモスソヲ引カト見ルナリ。下句行燭ト六道行トテトモス火也。續松ナルベシ。天河ニスル月ヲ見テ。是ハ七夕ノ續松ノ流水ニヒタリテ消ルカト云ナリ。火ニナレツレハ月欲消ト云ナリ。曳浪浸流ハ

河ヲ渡ル意ナリ

詞託微波雖且遣心期片月彼為媒

代牛女待 夜管輔昭

此詩題ノ心ハ七夕ヒコボレニカハリテ。トク晩事ヲミツ心ナリ。上句七夕ノイハヒホレキ詞ハ。コノ岸ヨリカノ岸ニヨスルサナニミツケテカクナト云送ル心ナリ。カクコソ近クマイワ望テ待ト云送ル心

楚思森茫雪水冷南聲清脆管絃秋 於黃鶴樓 婁羅望白

此詩ハ白樂天江州へ左遷ノ時路上ニテノ詩ナリ。文集十五有上句楚思ハ楚客ノ思ヲ云ナリ。楚ノ屈原汨羅ニナカサレタルトヲ。樂天ノ身ノ上ニ比シテ楚思ト云ナリ。森茫ハハルカナル鳥ナリ。雲水ハ水ノ廣クシテ雲ヲヒタセルヤウナルヲ云ナリ。黃鶴樓ヨリハルカニナカサリテ。物哀ナル景色ナリ。下句南聲ハ秋ノ聲ナリ。五音宮商角徵羽ノ中ノ商ハ方ニ當六西ナリ。時ニ當六秋ナリ。仍秋ノコトヲ商聲ハ云ナリ。清脆ハキヨクモロシト云ナリ。アキノコトハスコキ良ナリ。管絃秋ハ黃鶴樓ニ酒宴ヲナス時。管絃シテ樂ムトイヘドモ。猶秋ノコトハ秋氣色ノ物悲キ心コモレリ

大底四時心捨苦就中腸斷是秋天 曙丘 此詩文集十四ニアリ。四時ハ四季ナリ。春夏秋冬折ニツテ事ニ

望ニテイツモ心ハタムナラ子ドモ殊ニキモニソニテカナシキハ秋空ナリト云ナリ

物色自堪傷客意宜將愁字作秋心 客舍秋情 野相公

此詩題註ニ客舍ハタビノヤトナリ。秋情ハ秋ヲ悲ム心ナリ。此詩句ノ心ハ秋ハ野邊ノ露玉ヲツラヌキ。峯ノ紅葉ノ錦ヲサラセルアリサ。朝ノ霽色スサシクユズノ嵐音サビシキニツケテモスベテ物コト二人ノ心ヲ痛ズトイフコトナレサレハ愁ノ字ヲ秋心トツケルハムナリケリト云心ナリ。コト篋尤迂ノ時ノ詩ニヤ

由來感思在秋天多被當時節物牽 秋日感懷 田達音

此詩絶句也感思ハ物ヲアハレト思フ心ナリ。時節ニトリテハモトヨリ秋ヲノミツ哀ト思ヒシメタルソレハ夕々當時ノ節物ニヨリテナリト云ナリ。節物ハ景物ナリ。月光風ノ音紅葉ノ色虫ノ聲コレヲ云ナルベシ

月上山ヨリ出ナントスル月ノホノカナルヲ云ナリ。下句飛泉ノ瀧ノ事ナリ。所ハ大井河ノホトリ瀧ツ流ノキヨユルガ夜ニ入ニシタカヒテ次第ニヲトタカクナル意ナリ

とくく山ヨリ出ナントスル月ノホノカナルヲ云ナリ。下句飛泉ノ瀧ノ事ナリ。所ハ大井河ノホトリ瀧ツ流ノキヨユルガ夜ニ入ニシタカヒテ次第ニヲトタカクナル意ナリ

秋夜

秋夜長夜長無眠天不明耿耿殘燭背壁影蕭蕭暗雨打窓聲

上陽 是ハ文集第三樂府上陽白髮人ノ段ノ文ナリ。此段意ハ唐玄宗皇帝天寶五年ヨリ以來揚貴妃ヲカキリナク寵セサセ玉ヒケリ。後宮ノカタチヨキ人皆貴妃ニ子タシテ別ノ所ニウツシスヘラレケリ。上陽人モ其ウツサレタル人ナリ。此人十六ニテマイリテ六十歳ニテ上陽宮トテ都ノヒツジサルヤマガタツケル宮ノイト物

サビレキニウツサレ井テ。一生ムナシクモノ思ヒケリ。今此句ハ其思ニレツミテ秋ノ長夜ヲアカシカ子タル心ヲ作シルナリ。耿耿ハ燈ノ小明ナル良ナリ。背壁トハ上ニ註ルカ如ナリ。蕭々トハスサミシクサビレキ良也。暗雨ハクラキ夜ノアメナリ。燈ノ影雨ノ聲ミナモノ思ノモヨホシナルコトナリ

遲鐘漏初長夜耿耿星河欲曙天

長恨 哥白

此ハ長恨哥ノ文ナリ。唐玄宗皇帝揚貴妃ニヲクシテナゲキカケシ三玉ヒレアリサニヲ作ルナリ。上句遲々トハ夜ノ長クシテ鐘モ漏ルモヲソキ心ナリ。鐘ハ宮内ニ鐘ヲカケテ是ヲオラス也。漏ト云ハ漏刻也。初長夜トハ貴妃ガアリシ時ハ夜ノ長キコトモ知玉ハカリシニ別テ後初テ夜ヲ明シカヌルコトヲシリ玉ヘル心ナリ。星河トハアノ河ナリ。夜ノ明ナントスル時天河ニ星光ノカヤクナリ。此ヲ三ニモ心イトナクサメガタキナリ

燕子樓中霜月夜秋來只為一人長 白

此詩文集十五アリ。燕子樓三首ノ其一也。徐州張尚書ト云人アリキ其家ニ獨ノ舞姬アリ名ヲ巴野ト云キ尚書是ヲ愛寵セリ其比白樂天校書郎タリシ時徐州ノ間ニ遊ヒケルニ張尚書酒ヲススモテナレテ此野々ヲ出シテアツバセケリ其後張尚書ニカリニケリ彭城ト云所ニ彼フルキスヨカアリ其所ニ少キ樓アリ燕子樓ト名ク野々彼張尚書ガ事ヲ思テ又トツギモセズ其樓ニ獨居テ十二年ノ春秋ヲ送リケリ樂天是ヲアハレシテ此詩ヲ作り霜月上ノ霜夜ノ月也言ハ秋夜ノ長キハ只我身ヒトツノ爲ニ長キヤウニオホユ心ナリ

蔓草露深人定後空露盡月明前

秋夜黃祖廟野相公詩

此詩上句蔓上ノ字書ニ枝長也ト云リ蔓草ハ祖廟ニハヒユル草也人定後上ノ後漢書ノ字也子レツニリテ後ナリ下句ハ夜ノフケ

ユクミニ雲皆オサミリツキテ月アキラカナリト也哀情アサカラヌサミナリ

蒹葭洲裏孤舟夢榆柳營頭萬里心

秋夜雨紀齊名

此詩上句蒹葭上ノ蘆ナリ洲トハ爾雅云水中可居言之洲ト云リストイヒテ海ノ中ニ沙ノアツマリテミトナルヲ云ナリ孤舟トハヒトツノフ子ナリアレナト生タルスサキニ一艘ノ舟ヲヨセテウキ子レタラシ浪ノ枕ニ舊里ノ事ヲ夢ス秋ノ夜雨ノ物悲キ心也下句榆柳營トハ榆柳ハニトヤナギナリ胡國ニ多キ木ナリ營ハ軍兵ノ旅屋ヲ云ナリ夷ハ常ニ漢ヲ襲ハントスレバ其守リニユキテ井ル所ヲ營ト云ナリ彼胡塞ニタビノ日數ヲ送テ都ヲ万里ノ外ニ思遣折ノ夜雨ノ物心細キ心ナリ

あひびきれ山のあのをさぐりかのさぐりしをひらりもねん 人ぬ
松を集り入る秋のあひびきえ山といふらん 松河の宮家には侍候云

玉皇夜よ八只山とあり。びんぎとひまるといふ。びんぎりやく。詠日
 来定と。勝の形たどつます。ハまゝと。このまゝなり。まゝは常
 云。びんぎ別する。あゝ。只何し。びんぎと。おれ。さうなり。山も乃
 尾のまぶら。おろと。して。さぐく。一。おれ。さうなり。山も乃
 う。びんぎ。あゝ。おれ。さぐく。一。おれ。さうなり。山も乃
 ち。まゝ。おれ。さぐく。一。おれ。さうなり。山も乃
 ぐ。ね。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃
 の。おれ。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃

びんぎ。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃
 古今。おれ。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃
 目の。おれ。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃
 おれ。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃。さうなり。山も乃

八月十五夜 付月

秦甸之一千餘里。凜凜氷鋪。漢家之三十六官。澄澄粉飾。億

長安十五夜賦ナリ。秦上國ノ名ナリ。甸ノ字ハオホタトヨメリ。夏
 書ニ五百里ヲ甸服ト云リ。王制ニ千里之内。曰甸服ト云リ

一千餘里上秦地千里アルナリ。史記ニ見タリ。凜々トハ寒名
 良ナリ。心ハ一千餘里ノ間。月光米ヲ鋪ケルニ似リト云ナリ。下句ハ

漢家三十六官今夜ノ月ニ照カ、ヤキテ胡粉ヲヌリカサレリ
 ンヤウナリトナリ。澄々ハ明ナル良ナリ

織錦機中已辨相思之字。擣衣砧上俄添怨別之聲。同

是ハ上下同賦ナリ。上句相思之字トハ。寶滄ト云人遠國ニ行テ年
 月ヘテカヘリ。來ラザリケル。其妻ノ蕪若蘭ト云女。限リナク思フ

心ヲ。廻文ノ詩ニ作テ。錦ノ文ニ織ツケテ。其夫ニツカハシケリ。其錦
 字詩ノコトヲ。相思ノ字トハ云ナリ。意ハ彼錦ノ廻文ノミギレヤスキモ

月ノ光明ニ。相思ノ字ヲ。辨ヘツベシト云ナリ。下句ハ蕪武胡國ニ行テ

夕夕カヘラザリシニ。其妻秋ゴトニ衣ヲ擣テ。カヘノキタラハキセ
ント待ケリ。言ハ月ノクミナク照ス夜ハヒトシホ夫ヲ戀テ物ヲ思
テ衣ヲウテハ砧ノ音モ別ヲ怨ルコエヨソフルト云ナリ。俄ニト云
字可付心也。イツモウチタル砧ナレドモ今夜ノ月ノアキラケサニ
俄ニ物思フ心ソヒタルトナリ

三五夜中新月色千里外故人心

八月十五日夜禁中。獨直對月憶元九白

此詩文集十四ニアリ。白樂天八月十五夜月ノアカキ夜禁中ニソ
文友元慎ヲ思テ此詩ヲ作ルナリ。新月ハ八月十五夜アラタナ
ル月ヲ云ナリ。上句ハ今夜ノ月ノイハニカタナキ當意ヲアリノ
ミ、ニ云出タリ。下句ニ二千里外上元慎カアル處遙々遠ク隔
ケルナルベシ。故人ハ朋友ノコトヲ云ナリ。意ハ我今宵月見ルツ
キテハルカニヘタル朋友ノ心モ思ヒヤラルトナリ。心フカク舍ニテ
幽玄ノ句ナルベシ

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠

八月十五日 日詠月白

此詩文集三十二ニアリ。上句嵩山ハ五岳ノ中岳也。史記ニ三五タリ
表裏ハアノオモテコナオモテナリ。言ハ月光隈カニテ。嵩
岳ニ千重ノ雪ノフリシキタルカ如シト云ナリ。下句洛水トイフハ
河ノ名ナリ。京兆上洛縣ニ出タリ。水經ニ見タリ。高低ハ空ノ月上
水ノ影トナリ。意ハ月光洛川ニウツル時上下ニ兩顆ノ玉ノアルヤ
ニ見ユト云ナリ

十二廻中無勝於此夕之好千萬里外皆爭於吾家之光

高天

秋月明 是八月十五夜ノ詩序也。文粹第八ニアリ。上句十二廻
ハ十二月ナリ。一年十二月ノ中ニ今夜程コトナル夜ハアラビト
云ナリ。下句何ニモ各々ニ我家ノ光ヲ賞シテ爰ニ過テ月ノ明
處ハアラビト思フトナリ。作者紀ハ長谷雄卿ナリ

碧浪金波三五初秋風計會似空塵

月影滿秋池 詩 菅海茂

此詩一首四韻皆入リ是ハ發句也上句碧浪トハ三ドリノナミナリ。金波ハ月ニ映シタル波ノ光リナリ。皆秋池ヲイハストナリ。發句ニ題意ヲマヒテ。落句ニ直ニソノ字ヲスヘタル是一体ナリ。三五初トハ十五夜ノ初也。空虛トハオホソラナリ。意ハ浪清クス。月明ニヤドリタル池ニ秋風ノヒヤ、カナルハ只空明ニ似タリト也。計會ハ六月ノウツル浪ト秋風トヲカゾヘアハセタルナリ。

自疑荷葉凝霜早人道蘆花過雨餘 同人

是ハ同詩ノ胸句ナリ。上句ハチスノ葉ニ月ノ光映メイツヨリ早霜ノコレルカトオボユル心ナリ。八月ハイミダ霜ヲカヌ比ナレハナリ。下句ハアレノ葉末ニ月ノ影ノ映ゼルヲミナ蘆花ノ雨ノ後ニチリノコレルカトミユルトナリ。アレノ花ハ白キモノナレハ。月ノ光ニヨソヘタリ。遣モアレモ水草ナレハ池ノ心ヲイヘルナリ。

岸白還迷松上鶴潭灘可羨藻中魚 同人

是モ同詩腰句ナリ。上句池ノ岸ニ月ノ光白ツ松上ニ白鶴ノ居タル歟トアマツ心ナリ。下句ハ淵ノ底ニ月ノ影スミトヲリテ。藻ニスルカズモカソヘツベシト云ナリ。岸ト潭ハ池ノコロナリ。

瑤池便覺尋常号此夜清明玉不如 同人

是モ同詩ノ落句ナリ。瑤池トハ玉ノ池ナリ。崑崙山ノホトリニ池有其池ニ玉多シ。仍瑤池ト名クトイヘリ。意ハ瑤池其名ヲ得タレナヲ尋常ノ事ナリ。今夜此池ニ月ノヤドレル氣色ハ瑤池ノ玉ニモ猶勝レタリト云ナリ。或記云此作者淳茂菅家ノ御子也。菅家筑紫ニテ失給テ後亭子院ニテ御作文アリケルニ淳茂序者ニテ此詩ヲ作レリ。序詩トモニ神妙ナリキ。亭子院勅シテ曰此夜ウラフルトコロハ先公ノ無キナリトソ仰せラレケル。先公トハ菅家ノ御事ナリ。

金膏一滴秋風露玉匣三更冷漢雲

滿月明如鏡管三品

此詩上句金膏カウトハ鏡カミトク水銀スイギンナリ。膏字アハラトヨムナリ。鏡カミハ銅ドウヲモテ鑄イシモノナレハ金膏ト云。金銅鐵ノ惣名ヲ金ト云故也。心ココロ露スニタハルハ月ノ鏡ヲミカク水銀スイギンノミタハリオツルニテナナルト云ナリ。文集四ノ百練鏡ノ段ニ云。瓊粉ユヅリ金膏磨瑩カウ已マ化爲カ一片カミ秋潭氷アキトイヘリ。下句玉匣タマコトイフハガミヲ入ルハコナリ。ハコヲホメテ至タノハコト云ナリ。三更ト云ハ夜半也。冷漢レイカンハ秋ノ空ナリ。秋ハ空ソラスナレキカ故ニ冷漢ト云ナリ。心ココロハ夜ヨヲカキ空ソラニ月ツキヲオホヘル雲クモハ鏡カミヲ入タル至タノハコナリト云ナリ。

楊貴妃歸唐帝思李夫人去漢皇情

對再戀
月源順

此詩ハ再夜月ヲ戀ルコ、ロヲ唐玄宗ノ楊貴妃ヲ思ヒ漢武帝ノ李夫人ヲコヒ給ヒレ心ニタトヘタルナリ。楊貴妃トハ揚ハ姓ナリ。貴妃トハ貴キニヤス所ト云ナリ。弘農ノ楊玄琰ト云人ノ女ニテ其カタチ世ニ類タトカカリキ。唐玄宗皇帝ノ御時ニイリテ楊貴妃トキヨミ

帝ミカドカキリナク思食オモヒテ。世ノ政モシロシメサリリキ。貴妃キヒノコノカミ揚國忠ト云モノ。オロカニシテ丞相ノ位ヲヌスミ。國ノ政ヲトリ。依ヨ之ノ民タノイキドヲリ深カリレカハ。安祿山ト云シ武士揚國忠ヲ討ウツト。タハカリヲ成ナル乱シヲナシ。長安ヲオトシイレシカハ玄宗都ヲ去サテ蜀ノ國ヘオモムカセタヒ。貴妃相共ニ馬鬼ト云所ニテ出サセテテ。陳玄礼ト云臣下帝ノ御馬ノ前ニフテ申サク。願ネガハ貴妃ヲ賜タマリテ。民ノ憤イカリヲヤスメント申ス。惜オモトモ適タシト思食オモヒテ。高力士ト云モノニ仰オホセテ。貴妃ヲカタハラノ佛堂ニテクビリコロサシメ玉タマヘリ時ウツリ事コトカリ樂タカシニツキ悲カミニキタル。池ノ蓮ノ夏開サキケ。官ノ槐ノ秋アキウツルニツケテアモ。御心イタスト云事ナレ。委オウハ長恨歌傳ニ見タリ。此コトニ歸カエト云心ハ貴妃ハモト蓬萊ノ仙女ナリ。チギリアリテ暫トキ唐帝タウテイ妃トナレリ。チギリ盡ツキテ又マタ仙室ニカヘリス。故ニ歸ト云ナリ。死タルコト也。下句ニ李夫人ト云ハ李ハ姓ナリ。夫人ト云ハ女官也。此李夫人漢武帝

ツカへ奉り寵愛タグヒナカリニ病ヲ受テ三カカリニレカハ御門
カギリナク思食歎キテ或ハ晝ニ仰テ其形ヲウツサレヌ或
及魂香ヲタキテ其魂ヲ子キ給フ委ハ文集四李夫人ノ段有
此句スベテノ心ハ唐帝ノ思漢皇ノ情ハコレ戀ノ字ヲツクレ也心
ヤ三ニトヒテカナシムサニ雨ノ夜ノ月ヲ戀ニ似タレハナリ順多年ノ
間此詩ヲ作儲テタミク十五夜ノ月ノ雨フルニアヒテ六條宮具平
親主ニ參テ取出セルトナリ

あのおもふてり月をよとわすむをあはれむそ秋のともなる成るる
拾遺酒をよ屏風は八月なみ萩池ある家よ人あそびあるふと
あり月をよ八月の月をよもなるハ萩池也一季の月の夜をよとを
あはれむとをよ秋の夜をよあそむるものこもあはれむる月をよ
よめてよあり

月

誰人隴外久征戎何處庭前新別離

秋月

此詩文集十六ニアリ上句隴外ハ胡塞ナリ都ハ胡國トシ境大
山アリ隴山ト云城ヲツクレリ其山ノ邊ヲ隴外ト云ナリ征戎ハ
丑ヒスヲタダストヨメリ彼隴山ニ城ヲツクリテ胡ノ國ノ丑ヒスノ
都ヲ動サントスルヲ守ル軍師ヲ云トリ言ハ此月ノ明ナル夜イカ
ナル人カ隴外ニアリテ都ヲ思フヲ思ヒヤレルナリ月ヲミレハ
殊ニモノアハレニ心スニテ古卿戀シカルベケレハナリ下句ハイカナル
處ニカコヨ別ヲオレニテ月ニ袂ヲレホルラント思ヒヤレルナリ

秋水漲來船去速夜雲收盡月行遲

秋水東歸
即事 鄧展

此詩上句ハ鄧展ガ東ニカヘルトキ船ニノリテ秋水ヲワタルサニ
ナリ下句ハ月ハ雲ニ見アツレハハヤクユクヤウニ見ユ雲オサマリツキ
ヌレバイトドカニ見元ナリ彼ハイツカタヘユクトモ月ノ見エヌカナ
タナヒク雲ノ空ニナケレバトヨメル心ナリ

不醉黔中爭去得麻園山月正蒼蒼

送蕭處士

此詩文集十八二アリ。題ノ黔南八所名也。蕭處士ト云人。彼所送
ユラ。樂天ノ送作也。黔中トハスナ半黔南ヲ云ナリ。其ワタリ巴
峽ノ江アリ。巫陽ノ猿ノ斷腸ノ聲アリ。物心ホソクサビヒキ所ナ
酒ヲスグレテ醉ニアラス。公イカテカ黔中ヲカヘリサラシ。折シモ麻
園山二月ノ光蒼々トナリ。蒼々ハ八月ノ清クスサミキ氣色也
猶全篇ヲ見テ心得ヘシ。或記云天曆ノ御時文集ノ第一ノ詩ヲ
撰テ奉レト。文時ト朝細ニ仰セ事アリケルニ。相儀セシテ各此
詩ヲ奉レリ。子細ヲトヒケルハ。各申ケルハ。秀句ハ是ニサレモ
多ク侍レドモ。四韻皆相叶ヘルハ此詩ナリ。仍是ヲ撰テ侍レナリ
トソ申ケル其詩ニ云ク能文好飲老蕭即身似浮雲。驥似霜生計
拋來詩是葉家園忘却酒為卿。江從巴峽初成字。猿過巫陽始斷
腸。不醉黔中爭去得。麻園山月正蒼々。

天山不辨何年雪合浦應迷舊日珠

禁庭詠月

此詩註ニ禁庭トイフハ内裏庭ナリ。上句ニ天山ハ胡ノ地ニアル山
ナリ。四時雪消ストイヘリ。初學記云隴右道伊州ノ内ニアリトイ
言ハ月ノ光雪ニ似タル意也。何年雪トハ年ヲ積テフリカサナレドモ
終ニカヤウノ淨キ雪ハフラサレバイツレノ年ノ雪ゾワキニヘカタシ
トナリ。月ノ光ヲ雪ニ見テイヘリ。近ク重家卿ノ哥ニ。月キヨ三思
ソアヘ又山高ニイツレノ年ノ雪ニカアルラントヨメル此心ナリ。下句
合浦トハ所ノ名ナリ。良吏トテ政事ノウルハキ郡吏入來ハ彼ノ
合浦ノ濱ニ珠ノヨルナリ。酷吏トテ政惡キ受領入ハ彼珠去テ
交趾縣ト云所ニウツリヌ。後漢書孟嘗か合浦ノ太守ニテ入シ
時ニサリニ珠ノカヘリシ古事ナリ。月ノ光珠ノ如ナク舊日珠ニ
迷ハント云ナリ。舊日珠トハムカシサリニ珠也。今夜ノ月其サリタ
ル珠トハトハントナリ。三統理平ハ式部大輔從四位。延長四年四月

四日 李七十四

欲和豐嶺鐘聲否其奈華亭鶴聲何

夜月似秋霜
前中書王

此詩上句豐嶺トイフハ豊山ナリ豊山ニ有九鐘霜降而自鳴山海
經ニイヘリ。詩ノ心ハ月ノ光ハ霜ニ似タレトモ。ゴノ霜ハ豊嶺ノ鐘ニ
和スヤ不和セヤト云ナリ。下句遼城ト云處ニ華亭アリ。丁令威ト云
人。仙術ヲ得テサリレ後鶴ト成テ花亭ニカヘリ來テ華表ノ
ウヘニ井テ。丁令威去家千年今還來トナキケリト。神仙傳ニ見
タリ。又鶴聲トハ或説云百詠註云千年鶴霜降則飲聲不鳴
アリ。故ニ極言ト云。今言ハ月ノ光ノ霜ニ華亭鶴ノ聲ハイニレメヤズ
ラニイカハアルラニト云ナリ

卿淚數行征戎客掉歌一曲釣漁翁

山川千里
保胤

此詩題ハ山川遙ニトヲク月スミワタル心ナリ。上句卿淚ハ古卿ヲ
戀ル淚ナリ。數行トハ淚ノ多クツラナリナガル。心ナリ。千行万行ト

イノ心ナリ行字ハツラナルトヨム。陽唐韻ナリ。征戎客トハ上ニ云方
如シ下句掉歌トハサホノウタナリ。漁人ノ船ニサホサシテ哥フ心也
釣漁トハ釣ハツリ。漁ハスナドリナリ。月明カナル故ニ掉ノ哥ノ曲モスミ
ワタリテキユルナリ。是ハ川ノ心ナリ。管三品ノ亭ノ文會ニツクシ也
此詩論スル時。文時卿此詩ヲホメサリケレバ作者保胤イフカリ
思テ及ラスシテ。彼亭ニ卧タリケレバ夜ノ明カタニ三品目ヲサシ
テ此句ヲ誄ジテ。ヒトリゴトニイミシクモ作ルモノカナトイハレケル
時。作者オキアカリテ。保胤ハイマタ是ニ侍リ。御詞ヲ承ハラカ
爲ナリ。今ハミカリカヘリナトテヤカテ出ニケリ。或説ニ後日ニ
アヒテ。汝已ニ詩境ニ入ニケリトイハレケリトモイヘリ
あまのこころのきけしむるまらみさるのよまの月を
右今九詞きよまらみさるのよまの月を
さけとつよまらみさるのよまの月を

こつちもあり提のりこびつさげもふとろむり乃心さり
あつとろを中として提のりさつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり

遺唐使大伴山守不圓躬て学文のため不入唐とま
古今集巻三のりあり又二首のりあり又二首のりあり
新入むりありあり又二首のりあり又二首のりあり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり

飛鳥井家抄云湖海江海はけち乃他えみえんて山戸を田
集二ハ伊衛の海に奇佳物物居ハ新を越せしむるや。卷
後乃くわらるる。新よんひくくと刃を傳しるも古賢も各別
よおとられたり。打りり乃打ハ詞乃たもけ。一糸線同抄流
うらほえまうへぬりんて。馬按。新撰万葉下六。うけえんる
ふとあり

ふゆれも物あり。とらとろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
拾集集乃ろさ月をとりあつとろむり乃心さり
のさハ物あり。浮世ようをむり乃心さり
感懐りろさ月をとりあつとろむり乃心さり
うらちろりありろさ月をとりあつとろむり乃心さり
抄中勢心具平親ま

九月九日 付菊 續齊諧記云費長房謂桓景九月九日汝

家有灾急令家人縫絳囊盛茱萸係臂上登高飲菊花酒此禱乃消セント云レコレヨリ九月九日ニ山ニホリ

菊酒ヲクニ茱萸ヲ用ユルコト始リ

燕知社日辭巢去菊爲重陽日雨開

秋白東郊作皇甫冉

此詩三體詩第一ニアリ。題ノ心長安ノ東郊ニ皇甫冉ノ私第アリ。ソノコニテノ詩ナリト云心ナリ。上句社日ハ二月八月ノ戌日ナリ。春ハ春分ニ近キ戌秋ハ秋分ノ節ニ近キ戌日五穀ノ神ヲ祭ル也。コレヲ社日ト云燕ハ春社ノ比來テ秋社ヲ知テ巢ヲ去カハルトナリ。下句重陽ハ九月日名ナリ。九ハ陽ノ數ナリ。九月ニテ九日又陽數ナリ。故重陽トイリ。言ハ菊九日ハハントア。雨ヲ帶テサキマウケタルトナリ。月令曰菊有黃花トイヘルモ大方重陽ノ比ナリ。皇甫冉ハ潤州ノ丹陽人也。尤補闕賦ニテ二十リレカトモ官ヲヤテ隱居ノ志アル人ナレ。燕菊ナドノ時ヲ知ヲ見テ吾淺薄ノ才ニテ

官ニツカヘテ隱遁セサルコトヲ嘆ジテ作レルナリ

採故事於漢武則赤萸插官人之衣尋舊跡於魏文亦黃花助

彭祖之術

視賜群臣菊花詩序紀納言

此詩序也。此序文粹第十一ニアリ。視

群臣賜黃花ト云題也。上句ハ漢武帝時九月九日ソノミヤ人ニ皆茱萸ト云草ヲ袖ニカケサセ玉ヒケリ。西京雜記ニ見エタリ。茱萸和名ニエビスカヅラト云。其實赤カ故ニ赤萸ト云。故事トフルキ事ナリ。意ハ先跡ヲ漢武帝ノ代ニトフラハ赤萸ヲナム官人ノ衣ニカケラレシ。今其アトヲオヒテ。カク今禁中ニモオコナハルナリト云ナリ。下句魏ノ文帝九月九日鐘繇ト云人ニ一束ノ菊ヲタメハリシ書ニ謹奉一束以助彭祖之術ヲ云。彭祖ト云仙人ハ菊ヲ服シテ長壽ヲ得タリ。其年七百歳ナリ。形ハワカク盛ニテ十七八歳ノ如シ。列仙傳ニアリ。今言ハ舊例ヲ魏文帝ノ代ニ尋ル。黃花ヲ玉ヒテ。彭祖ガ仙術ヲ學ビタメヒシ。然ルモ今モ其例ニミカセテ。カク群臣ニ

菊ヲ賜フト也黄花ハ黄菊ナリ。シカバ九日ノ宴ハ漢武魏文
始メタマヘルナバカク云ナリ

先三連号吹其花如晓星之轉河漢引十分号蕩其彩疑秋雪
之廻洛川 同 此上同序也。上句三連ハ酒ノ名ナリ。シカバ各ル

コトハ蓋ニ入テメグルナリ。三名廻ラシヅル時ノムナリシカラサハ
トナラサルナリ。サテ酒ヲバ三連ト云ナリ。三名ヒニシヅムルト云事

ナリ。遲ハシヅムル義ナリ。其シヅムラサル前ニ其菊之盃ニウカヒタ
ヲ吹テ花ノメクリ動ク曉ノ星ノアノ河ニメグルヤウニ覺ユト云也

下句十分ハ是モ酒ヲ云ナリ。ヨク滿タル心ナリ。蕩其彩ハ十
分ニミチタル盃ニ菊ノ花ノ色ヲヒタシタレバ秋ノ雪ノ洛川ヲメグル

ヤウニオホユト云ナリ。洛川ハ河ノ名ナリ。唐ハ伊川洛川トテ大
ナル川ノアルナリ

谷水洗花汲下流而得上壽者三十餘家地脉和味食日精而

駐年顏者五百箇歳

同 此上同序也。上句ハ南陽酈縣ニ谷有

其水甚甘味ナリ。其山ノ上ニ多ク菊ノ花アリ。其花ヲ洗テ落シ
依テイニキナルベシ其流ノ末ニ三十餘家ノサトアリ。其里ノ人

此水ヲ飲ガ故ニ皆上壽ノヨヒヲ得タリト云リ。翹林文苑有
上壽ハ百二十年ヲ云ナリ。中壽ハ八十也。下壽四十ナリ。下ノ句

地脉ハ藥也。劉生ト云フ仙人。白菊花汁地脉ノ汁是ヲ丹ニ和シ
蒸テ服ノ五百歳ノ齡ヲ得タリトナリ。菊花ヲ日精ト云ナリ。ハ

地脉ヲ和シ日精ノ藥ヲクラヘルモノハ。五百箇歳ノ齡ヲ得ト云
ナリ。或説菊根一名地脉云云。駐年顏トハ年ノユキテハ顔色襄

コトヲ駐テ。年ヨラス若ヤカナル顔ニテアラシムルコトヲ云ナリ。和
名云菊加波良與毛木一云可波良於波木。日精草也

わがものさき乃ちさきさきとふくよつとて倒とるん 元補
拾遺集詞也。三条のさき乃ちさきの裳をゆる屏風は九月の

乃亦と云てえ痛のちるり。もてしむ陽の郡縣といふ所の管水
とらると甘多なり。そふらとの菊水もあはれくさるるといふは
とらとるる也。良詞詠文よ名ははた下流らぬと云ふ事こ
十餘家とあるもこれなり。とて事のいさうもて。おの菊水あ
とらとるふくよもりては有る水のこくく剛とらるん
とらとるふくよもりの風といふ事とて連飲ももくもくや

菊

霜蓬老鬢三分白露菊新花下半黄

九月八日 酬皇甫十見贈 白

此詩文集三十四ニアリ。此詩コトバヲ菊ノ花ニヨセテ我ニヒノ老
タル事ヲナケク心ナリ。老人ノ鬢髮ヲハ霜カレノ蓬ニタトタ也
是ヲ霜蓬ノ老鬢ト云ナリ。三分白トハ十ノ物ニツバカリミラケ
タリト云ナリ。詩ニ首如飛蓬ト云モ鬢髮ノ乱タルヲ蓬ニタトフルナリ
下句露菊ハ露ヲフクメル菊ナリ。新花ハアラタニサキタル

花ナリ。一半黄ナリトハ半ハウツロヒテ黄ト云ナリ。半分ニアタレリ
或云下半黄トハ黄白アヒ交ル心ナリ云

不是花中偏愛菊此花開後更無花

十月菊 花元慎

此詩ノ心ハ花ノ中ニ偏ニ菊ヲノミ愛スルニアラス。ヨロツノ花ヲハリニ
開テコノ後更ニ花ノアルミダケハ殊ニアハレト云ナリ。或記云嵯
峨隱君子ノ琴ヲヒキケルニ元慎ガ靈ノアラハレテ云ケルハ後ノ字

アヤニリナリ此花開盡トアルヘキナリト云ト云

嵐陰欲暮契松栢之後凋秋景早移嘲芝蘭之先敗

既禁庭 殘菊紀

是ハ詩序也。上句嵐陰トハ秋ノ時ヲ云ナリ。秋タレカタニ成ヌレハ
諸ノ木草ハ皆オトロヘ凋メルニ。菊ノニヒトリ松栢ト共ニ諸木ノ後
シホミニコトヲ契リテ。更ニオトロヘタル氣色モナレト云ナリ。下
句ハ秋ノ景氣ハウツリカハリヌレトモ。菊ハナヲトキハニテ。芝蘭
ノ先カレヌルコトヲナシ嘲ケルト云ナリ。畢竟禁庭ノ菊ノ夕

ノコリシコトヲホメ祝ヒタル心ナリ。松栢之後凋トハ論語也
酈縣村閭皆潤屋陶家兒子不垂堂三善清行

此詩心ハ黃菊花ノ金ニ似ル心ナリ。上句酈縣菊ノ事上註ニ見タリ

村閭トハムラサトナリ。即チ三十餘家也。潤屋トハ富人ノ家ナリ。富ハ

屋ヲ潤スト礼記大學篇ニ見タリ。詩心ハ菊花ニナ金トミレハ酈

縣ノサトハ皆富人ノ家也ト云ナリ。下句ハ陶家トハ陶潛ガ家也

陶潛ハ東籬ニ菊ヲウヘテ愛セシ人ナリ。文選ノ陶潛ガ詩ニ採菊

東籬下トイヘリ。不垂堂トハ古語曰千金子不垂堂トイヘリ。文選第

二十三家累千金坐不垂堂云云。今案垂堂トハ堂ニホリテ危キ

ワカスルヲ云ナリ。詩心ハ陶潛ガ家ニ一叢ノ金アリ。其子トモ、

堂ニホリテ危キワカサセト云ナリ。陶淵明ガ子共五人アリ。奇

宜誰端通是ナリ。陶潛ガ本集責子詩ニ見タリ

蘭苑自慙為俗骨種籬不信有長生

菊是草中
仙保胤

此詩題心ハ菊ヲモテ衆草ノ中ノ仙人也ト云ナリ。上句ハ蘭苑ハ

枯ヤスケレハ我身ノイヤタ。俗骨タル事ヲ耻テ菊ハ仙草ニテ金

骨ノ相アル事ヲウラヤム心ナリ。仙術ニ仙人ノ相ヲ金骨ト云。仙

相ナラヌヲ俗骨ト云ナリ。下句ハ籬ノ籬ニハユカケテシラヌ

習ヒ。菊ノ長生ヲタモキテ。千年少秋ヲ送ト云事ヲ不信ト云也

蘭意苑嵐推後逢萊洞月照霜中

花寒菊点
兼管三品

此詩題心ハ餘花ハ皆枯盡ニ。菊ノミヒトリノコル心ナリ。上句蘭

和名云。不知波加万也。蕙モ同類ナリ。其色紫ナリ。故嵐ニチリ

ウセヌルヲ紫ヲクダキテト云ナリ。下句蓬萊洞トハ仙宮ヲイフ

菊ハ仙宮ニアルナハカク作ルナリ。照霜中トハ冬ヲ向ヘテ霜ノ

置ニモ菊ノサカリナル心ナリ。本朝詩新例云。詩ノ境ニ不入者ハ此詩

ノ心ヲエズ。文時卿モ自作ナガラ秀句トモオモハサリケルヲ保胤

カ是秀逸ナリト云ケルヲ聞テ。文時卿深ク思テニコトニカアリ

ケリトイハレケリ云云

ひさうころやむとふてさるさういあまの星をそあやまらばる報り
古今集初きふ寛平のしけ時さくの報とらむを流るるとあり。在
今海云。ばあもまご殿とゆるされざりたる時よ。はくあまの星を
はくまらわるとるんま。牡丹花を重のこい殿と。あまの星は
やま星也。あやまらるととみまふまら。ひさうころやむと
りんとそ。敏行ハ按察使富土丸男。右左衛門督に位

心あてふあまの星をそあまの星と。海とさるさうさくの報 杉恒
古今集初きまらさくの報とらむを流るるとあり。在
今海云。ばあもまご殿とゆるされざりたる時よ。はくあまの星を
はくまらわるとるんま。牡丹花を重のこい殿と。あまの星は
やま星也。あやまらるととみまふまら。ひさうころやむと
りんとそ。敏行ハ按察使富土丸男。右左衛門督に位

とりのあまの星と。あまの星とらむを流るるとあり。在
今海云。ばあもまご殿とゆるされざりたる時よ。はくあまの星を
はくまらわるとるんま。牡丹花を重のこい殿と。あまの星は
やま星也。あやまらるととみまふまら。ひさうころやむと
りんとそ。敏行ハ按察使富土丸男。右左衛門督に位

九月盡

縦以嶮函為固難留蕭瑟於雲衢縱令血貴而追何遽來賴於

風境山寺惜秋序順是ハ文粹ハニアリ。九月盡日於佛性院惜秋序也

上句嶮函ハ秦國ノニア開ノ名也。文選賈誼ガ過秦論云秦ノ孝公
塹峭函之固トアリ。左傳卅二年註殺在弘農澠池縣西ト云。函ハ函
谷關也。蕭瑟ハ陰令促急風疾暴也。秋ノスサマシキ風景ナリ。楚辭
蕭瑟兮草木搖落トアリ。雲衢ハ雲路ト同じ。クモノチマタト云ナリ。心ハ
秋ヲ留メントテ嶮函ノ關ヲカタメタリトモ。雲路ヲ遊ル秋ノ風景ヲ
エヤハトメント云ナリ。下句孟賁ハ齊人ナリ。生ナカラ牛角ヲ拔ク
多カノ士ナリ。史記ニアリ。爽籟ハサヤカナル秋ノ景氣也。風境ハ在

サカヒトヨム。風ノ吹ヲトコロヲ云ナリ。ハ秋ヲ留メガ爲ニ冠ハヤク
カアル孟賁ヲシテ。ヲハムトモイカテカ秋ノ氣ヲバサヘテト云ナリ
頭自縱隨禪客乞。以秋施與太應難。山寺九
月盡願

此詩文粹ニ詳也。禪客トハ禪ヲ修スル人ナリ。ハ我頭目ヲハ。タトヒ禪
客ノ乞ハシニ隨テ施ストモ。秋ヲバナテ惜テ施ス事アタハヒト云ナリ
セテ秋ヲ惜心ナリ。頭目ヲホドコレアタフルト云コト。法華經提

婆品ニ頭目髓腦身肉手足不惜軀命云云
文峯按續白駒景詞海。巖舟紅葉聲。秋未出詩
境ヲ以言

此詩題ニ詩境トハ詩ヲ作ル處ナリ。詩作ル處云秋殘心ナリ。上句
文峯トハ作文。所ヲ峯ニタトヘタルナリ。按續トハノツバミヲオサヘテ
行ヤラヌ心ナリ。白駒トハ日ヲ云ナリ。魏豹ガ傳ニ人生一世間如白
駒之過隙。註。白駒日景也。山路ヲコエテ秋行シトスルガ文峯ニヤス
ラヒテ。白駒ノクツバミヲオサヘタル心ナリ。下句詞海トハ是モ詩ノ境ヲ

海ニタトヘタルナリ。巖舟トハ舟ヲトメテ出サシトスルヲ云ナリ。漢
書云。烏江亭長。檣舟而待項王。トイヘリ。紅葉聲トハ落葉ノ水ニカ
ヘルヲ。秋ノ乘テ行。船ニヨソヘタルナリ。一葉ノ舟ノ事。下卷ニアリ。今ク
ハ秋ノ波路ハルカニ去シトスルガ。詞海ノ三キハ紅葉ノ舟ヲヨソヒテ
未ダコギイデヌ心ナリ。以言ハ式部太輔文章博士大陽守仲宗ノ
子ナリ。或註云。齊名ト以言ハ一雙ノ文士ナリ。詩合ノ時此二人ア
イトミテツクリケニ。齊名カ詩ニ霜花後垂。詞林曉嵐。葉前駢筆。
驛程云。以言詩。日文峯按續。駒過景。詞海。巖舟。葉落聲云。未合前
以言件ノ詩ヲモテ。六條官具平親王ニイリテ密々ニ申合。奉
ケルニ。官被御云。白ノ字ヤアラマホシカラント云云。以言承ル。ハ。白
駒紅葉ニコソトテ。ヤガテニカナラレテケリ。サテコソ。殊ニ秀句ニ
ナリテ。齊名ニ勝ニケレ。齊名コレヲキ。テ官ヲ恨ニ奉リケル間
病ヲ受テ限ニ成タリケルニ。官ヨリ御訪アリケレバ。御返事ニ申テ

扶桑豈無影乎浮雲掩而忽昏叢蘭豈不芳乎秋風吹而先敗

菟裘賦前 是八菟裘賦文也此賦一物集ニアリ菟裘トハ魯隱公魯

中書王 前中書王ハ延喜御子天曆弟兼明親王又ハ御子左宮ト申ス

彼隱公ノ菟裘ニナゾラヘテ龜山麓ヲシメテ山莊ヲイトナシ玉

シトキ小野官殿實賴清慎公ノ謫ヲ得テ弥ヨ籠居シタヒテ

此賦ヲ作りテ箱ヲトチテ置玉ヘリ宮カクレ給ヒテ後世ニ旨

アリ又天曆ノ帝御覽シケルニ君昏臣諂ノ句ニ至リテ龍顏ヨ

ロコヒスニテ御傍ニナケヲカレニケリ奉ル人恐思フ間ニハラク

アリテ又御ラシケルニコノ扶桑豈無影乎ノ句ニ至テ大ニ啼泣

シタヒケルトナリ上句ニ扶桑トハ日ノ名ナリ日ハ扶桑ノ林

ヨリ出ル故ナルベシ意ハ日ハ影明カニナキニアラ子トモ雲掩ハ無

甲斐ト云ナリ天子ハ明カニオハシメトモ佞臣アルバゾノツカラ政

クラキタトヘナリ下句ハ叢蘭芳シカラントスレドモ秋風吹ハ破ル

ト云是蘭ハ忠良ノ人ニ喻ヘ風ヲ邪佞ノ臣ニタトフルナリ兼明始

左大臣トテナリタヒテ君忠節ヲツクシ玉ヘトモ清慎公邪

心ヲフクミテ終ニ親玉トナシイラセ世ノ政ヲ我心ニカセ給ニ

コトヲ憤リテ作り玉ヘルコトバナリ

凝如漢女顔施粉滴似鮫人眼泣珠

紅蘭受露ヲ 柳良香

此詩漢女鮫人ノ事上ニ註先カ如シ上句ハ紅蘭ノ色ハ漢女顔

タトフ露ノコリテ蘭ノ葉ニ置ヲ粉ヲ施セルニタトフルナリ下句

蘭ノ露ノシタリオツルヲ鮫人ノ珠ニ泣ニタトヘタリ都良香文

章博士也主計頭貞繼男延喜比ノ人ナリ

曲驚楚客秋絃韻夢新燕姬曉枕薰

蘭氣入輕 風直轉

此詩題ハ蘭ノニホヒ風ニ薰スル心ナリ輕風トハハラカナル風ナリ上

句曲驚トハ琴ニ幽蘭ノ曲アリ文選雪賦ノ註ニ見タリ然ハ琴ノ曲ニ

アルナリ下句ハヒトタビ却スル人又トカヘリ不來タトハ横ノユア
カゲマタス散スルニ不異ト云ナリ文集云薤葉有朝露撞枝无宿
花云此句ノコロナリ

おのりくるまをれとちりん秋を乃たえふふおのりおのり
はち新秋撰よふと人志と入ゆりおのりおのり
人のちよよ比てふおのり秋を乃たえふふおのりおのり
ともちりびとくおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
捨き衣傷ぬりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
とちり。下句まをれとちりん秋を乃たえふふおのりおのり
人もおのりハハ秋撰あつととちりん秋を乃たえふふおのり
なれも人もおのりおのりおのりおのりおのりおのり
恒徳云宅男おのりおのりおのりおのりおのりおのり
志平一師輔一為光一道信

前栽

多見栽花悦目儻先時頽養待閑遊

栽秋花
菅三品

此詩次ノ句ト絶句ナリ。悦目ハ愛翫ヲ云ナリ。是世トノ花ヲスク
人ノアリサニヲ云ナリ。先時頽養ハ兼テヨリ地ニツチカヒツクロフ
事ヲ云ナリ

自吾閑寂家僮倦春樹春栽秋草秋

同

此上ト同詩ナリ。閑寂ハ身ヲシヅカニシテ井ルコト也。家僮ハ家ノ
内ノ僮僕也。意ハ我身便ナクナリテ。家ノ内ノ僮僕モ。モノウク成ニ
ヨリ。春ノ木ハ春ウヘ。秋ノ草ハ秋ウヘ。時ニサキカチヤシチフコト
ナキユヘ。花モハカグレカラ又トノ心ナリ

閑思看汝花紅日正其當吾髮白時

初植花樹
詩保鑑

此詩汝トハ所植ノ花ヲサレテ云ナリ。ハツラク此植タル花ノ紅盛
ナラニ日ヲオモヒヤハ。吾髮ノ白クナラニ時ニゾアルベキト思ナリ

曾非種處思元亮為是花時供世尊

栽種一
菊管

此詩ハ元亮ハ陶淵明ガ名也菊ヲウヘテ愛セシ人ナリ今ハコノ
菊ヲウユル事ハ元亮ヲ思テ只ニ愛ノモテアソバントニアラス此花
時ツミテ佛ニ奉ラシカタメノ故ナリト云リ

ちりともふと下とをありさす七よりりともわうともひのむ形也
古今詞云隣より庭家の母とあひよとせりり々ねむおきて
けうとをうとせけうりり々ちりともふと下とをありさすけうり
あり実意をあらんを庭を花とせりり々清浄とせり茶とのみ字
よありてよありげ花と妹とくさくさ同じくふ豊熟して
るもむろちりともふ居トといゆるをかりてつりり事ち
あ〜〜とあり

ともふより物をぞありふち〜露のぞあとい〜あ〜んとと〜ん
げんれそおもむたりし花と大切ふありふれ〜ちるちつひと
ありとあり

和漢朗詠集註卷之三

和漢朗詠集註卷第四

紅葉 付落葉

不堪紅葉青苔地又是涼風暮雨天

秋雨中贈元九

此詩文集第十三ニアリ。秋雨中贈元九也。不堪上感ニタヘタル意ナリ。モミチ散ツモル苔ノムシロ。秋ノ感サヘ堪ガタキニ又ヒヤ、カナル風ウチ吹ユフベノ雨フリスサフ空ノ氣色ナシワリチタ

ナクサヌカタシトイフナリ

黃纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨無風

太湖書寄微之

此詩文集二十四ニアリ。太湖水一名也。上句黃纈纈上黃赤アヒミシハル色ナリ。朽葉色ヲ云ナリ。モミチノ色ソヒニ似タヒ黃纈纈林ト云ナリ。寒有葉トハ冬ノ氣色ノイロニ顯レタル意ナリ。下句瑠璃ハ色々アル其中ニミドリナルヲ碧瑠璃ト云ナリ。水スミテ彼ニ似タヒ云ナリ。淨無風トハノドカナル心ナリ。太湖ノ水

イサキヨキヲイヘルナリ

洞中清淺瑠璃水庭上蕭條錦繡林

毛吹池頭紅葉ヲ保領

此詩意可知。瑠璃水トハ上ニ註ガ如シ。清淺トハ岩井ノ水ナドク淺

スルコトロナリ。錦繡林トハモミチセル林ハニキクスイモノニ似タシハ

カク云。蕭條ハ秋ノ氣色ノサビレキ貞ナリ一本蕭疎トアリ心同

外物獨醒松澗色餘波合ガ錦江聲

山水唯紅葉以言

此詩題ハ山ニモ水ニモ紅葉ノ散滿タル心ナリ。上句外物トハ紅葉

ノ外ヲ云ナリ。秋ハ衆木皆紅ニシテ醉ルガ如ナリ。松ノ夕テル色

ノミツヒトリサメタルト云ナリ。松澗トハ松アル夕ニナリ。文集ニ澗

底有松トアルナリ。是山ノ心ヲ作ナリ。但獨醒ト云事ハ本文アリ

屈原字ハ屈平。楚ノ懷王ニツカヘテ賢人ナリケレバ人ソ子ニテ

讒ヲイタシケリ。懷王讒ヲ信ジテ屈原ヲ流シ放タシケリ。

屈原澤ノ邊ニサマヨフテ形モオトロヘアラヌサマニ成タリ。漁父

船ニノリテ。湘水ト云江ヲヨギ來テ屈原ヲ見テ問曰。汝ハ三

閭太夫ニ非スヤ。イカテカコニハ來ルゾト云。原答曰。世コソリテ

濁レリ。我ヒトリスメリ。衆人皆醉リ。我獨醒タリ。此故ニハナタレタ

リト云リ。此屈原ガ言ヲ借テ衆木皆紅ナルハ衆人皆醉ガ如

松樹ノ獨ミトリナルハ原ガ獨サメタルガ如シ。故ニヨソヘテカク云也

下句ハ餘波トハ紅葉ヲチラセシ風ノナリノ波ヲ云ナリ。合カトハ

彼紅葉ノオツル音ニ波ノヨスルコエヲソヘチカラヲ合セタルナリ。錦

江トハ蜀ニ江水アリ。其水ニ錦ヲアソハ。錦ノ色殊ニイミジキナリ

文選註ニアリ。紅葉ノウカヘル水ハ。錦ヲスグ江ニ似タリ。故ニ云リ

是ハ水ノ心ヲ作ルナリ

あつちも時をいへるもつちも下は世にさうさうと紅葉あふまけり。昔々
ツラッキニシテ
昔々集よはけ。汎海乃ごとく紅葉あふまけり。とあり。古今集よは
下はあつちもつちもさうさうとゆる。葉推云。昔々も時をいへる

心ハミヤコノ柳槐ナド。ミダリガハシクチリニカヘドモ。貴人ノ心ハ秋ノ悲モアラジ。只ワビ人ノ爲ニシテ无限アハレナルト云ナリ。貴人ハ僕射ヲサシテ云リ僕射ハ大臣ト云官ノカラフ名ナリ

梧楸影中ニ一聲之雨空灑鷓鴣背上數片之紅纒殘葉落風枝 踈序 順

此ハ神泉苑ニシテ賦落葉序ナリ。上句ハ桐ノ葉ノオツルヲトノ雨ニ似ル意ナリ。一聲ノ雨ハ一村サトチリソムル心ナリ。空灑ハ三トノ雨ナラ子ハナリ。鷓鴣ハ鳥ノ名ナリ。崔豹ガ古今註鷓鴣向日飛畏霜夜飛則以樹葉覆背上下アリ。霜ノヲカニ事ヲ悲ムナリ。數片ハ彼背ニオヘル紅葉ノ色ナリ。纒殘ハ木葉ハミチチリハテ。鷓鴣ハセナカニモミチノ色ハノコルト云ナリ

樵蘇往返杖穿朱買臣之衣隱逸優遊履蹈葛稚仙之藥落葉

此ハ長樂寺ニテ賦落葉序ナリ。上句樵蘇ハ樵ヲシテ高相如ナリ。往返ハユキカフナリ。朱買臣ハ人名也。字ハ翁子漢代

人ナリ。會稽ト云處ニスミケリ。家マツレクシテ好テ書ヲヨミケリ

漢武帝ノ朝ニツカヘテ。侍中ニ成ケリ。サテ又シクシテ會稽太守トナリニケリ。帝クタハク。富貴ヲ古卿ニカヘラヌハ。錦ヲ着テ夜

行カ如トノ玉ヘリ。是ニヨテ錦ヲ朱買臣カ衣ト云ナリ。下句隱逸トハ世ヲ遁テ山中ニ籠居タル人也。葛稚仙ハ仙人ノ名ナリ。彼

金丹ヲ子リテ藥トセリ。藥ノ色アカクシテ紅葉ノ色ニ似リ。仍テ

隱士中ニ木葉ヲワケテ遊ブニ。其履丹藥ヲフムニテナシアルト云ナリ。相如ハ高階氏

隨嵐落葉含蕭瑟澌石飛泉弄雅琴秋色色變 山水順

此題ノ心ハ山ハ紅葉トナリ。水ハ落葉ニ色變ジタル心ナリ。上句蕭瑟ハ秋ノ風ノ急ナル声ナリ。上ニ註ス。意ハ山ノ嵐ニチル紅葉ハ秋ノケシキシルクコモルトナリ。下句飛泉ハ瀧ナリ。石ニナカレソクク瀧ノ音ハ琴ヲモテアソブニ似タリトナリ。雅琴ニ蕭瑟對スルハ

瑟モコトノ類ナハ字對バカリナリ。泉ニ琴ヲ弄ト云コトハ蓋山ノ舒姑泉ノ古事也。昔舒氏ノ女音楽ヲ好キ。薪ヲ取ニ行テヤガテ坐シテ動ズシテ泉トナヒリ。人其泉ノホトリニテ絃歌スハ泉漏流ト云リ。宣成記ニナリ。此詩上句ハ嵐ト云テ

題ノ山心ヲツクリ。下句ニ水ノ心ヲイヘリ

逐夜光冬月每朝聲少漢林風

秋葉隨日落
後中書王

此詩上句吳苑トハ吳國ノ苑ナリ。苑ノコスエバラナルニ。月光リ夜ヲオヒテマサリユク心ナリ。下句漢林トハ本文ナシトテ人カタグキ申シケリ。或云漢ノ上林苑ヲ云リ。心ハ木葉ナリ又ハ朝ノ風ヤ、聲少ト云ナリ。葉ノヨクコトナケハナリ

あむと川知れぬささるるづらみれ山の秋風ささるるあけし人ぬ
新古今よ入さるる。葛城山も花より川のおよぶ人あやふく山おれ
む。ささるるやういさささささ。縁樹ささるるささるるささるる。

大和のあらわし。まこの句よく句とまりてよむべし。古今ふ港田
川りみちをささるるかきさるるひらささるるのさよはあさるる。一俵乃
うささるる

かみれづらささるるささるるひのさき。あさるるささるるささるる
はあさるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる
あさるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる
ささるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる
ささるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる

あさるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる
古今集洞ささるるささるるささるるささるるささるるささるる
とあり。あさるるささるるささるるささるるささるるささるる
ななれぬささるるささるるささるるささるるささるるささるる
縁はあさるるささるるささるるささるるささるるささるるささるる

み〜も曲る事又つり。中後朱買臣が貧窮して藜を
 ありたり〜とを綴りよき事して學問せり。終り帝小のさ
 きて舍秘山の古事なり。史記云。蜀書ありて
 古事より〜と綴りよき事して學問せり。終り帝小のさ
 香云史記。朱買臣が古事なり。夜結とあり。項羽の〜とふ又
 け後あるふぞれよ。終りよき事して學問せり。

鴈 付歸鴈

萬里人南去。三春鴈北飛。不知何歲月。得與汝同歸。
南中詠入鴈ヲ白
 是心唐玄宗皇帝時。天寶末年。楊國忠トイヒ人丞相ノ位ヲ
 又スミテ。世ヲホシイ一ニセシ時。兵ヲアツメテ雲南王閣羅鳳ヲ討
 二行クニ其軍ニヲト行者八千万人ニヒトリモ歸ルコトナシ。文集ニ
 云無何天寶大嶽兵戸有三丁。抽一丁。點將驅向何處去。五月万
 里雲南行。云此朗詠ニ万里南去ト云是ナリ。次ノ句ハ鴈ハ秋

來り。春ハ北ニ歸ルカ故ニカク云ナリ。鴈ハ期アレバ北ニ歸ルトモ南ニ
 ユキスル人同ク歸來ラシ事ハイツトモ不知ト云ナリ。或ニ云白居易
 三月ニ尋陽江ニハカヒ給フニ鴈ノ北へ歸ルヲ見テ作ラセタルナリ
 我ハ南ニユク。汝ハ北ニ歸ル。何レノ時ニカカレリアハントスルト云ナリ
 潯陽江色潮添滿。彭蠡秋聲鴈引來。
登江州清輝樓 劉禹錫

此心潯陽江ハ郡ノ名ナリ。潮添滿トハ潮ノサス時ハ江ノ水ノ深ク夕
 へテ色ヲソヘタル心ナリ。彭蠡ハ湖ノ名ナリ。ミツウミノウヘヲ鴈ノ
 鳴ワタルトキ秋風至ルト云心ナリ。
即今江西鄱陽湖

四五朶山粧雨色。兩三行雁點雲聲。

雋陽道中 杜荀鶴

此詩四五朶山トハ朶ノ字ハ枝也。エタナトサシ出タルヤウニ山ノ
 アタミユル景氣ナリ。呂榮ガ望花山詩。日花岳陰森秀色濃。削
 成三朶碧芙蓉トイヘリ。是モ花山ノ聳テ三朶ノ芙蓉ニ似タルヲ
 云ナリ。粧雨色トハ秋雨ニ漸ク紅葉セシ心ヲ云歟。下句行字ツラ

ナルトヨム。陽唐韻也。杜荀鶴ハ杜牧之カ微子ナリ。翰林學士トナル。モト池州人ナリ。池州ニ九華山アリ。故ニミツカラ号九華山人ト云フ。難避未抛疑於上弦之月。懸奔箭易迷猶成誤於下流之水。急塞雁識秋天。此詩序也。文粹弟十一ニアリ。鹿弓トハ半月ハ弓ニ似タルトモ實ノ弓ニアラ子バムナレキ弓ト云ナリ。心ハ空ヲ飛ワタル雁ノ上弦ノ月ヲ見テ弓ト思テ。ニホサラントスレドモ去得マ心ナリ。疑ヲナケウタズトハ。是ハ月ナリケリ弓ニアラサリケリトハ更ニ思ハヌ心ナリ。下句奔箭トハハヤトハ矢ナリ。下流水トハ山川ナドノ早クオチ來ルヲ奔箭ニタトヘタリ。意ハ鷹ノハヤキ流ヲ見テ。箭ノクルニコソト思テ。恐レ心ナリ。熊孺登カ詩ニ江流如箭。月如弓ト云ルト同ジ。是ハ後江相公朝綱ノ作ナリ。文時卿懸ノ字ヲ心ユカズオホサレケル程。三十年過テ後必ズ此字アルヘカリケリト思ヒアハセラレタリ。サテ我相公ニオトヘル事三十年也。

道家稱天空曰
碧落

トナシハレケル

鴈飛碧落書青紙集擊霜林破錦機

秋暮傍山
行田達音

此詩上句碧落トハ青天ナリ。ミドリノ空ニ鴈ノ飛ツラケル。青キ紙ニ文字ヲカケルニ似リト云ナリ。下句集ハハヤフサナリ。霜林トハヒカレノ林ナリ。意ハ集ノ翅ニタカレテ。林ノ木葉ノチルカ

碧玉粧斜立柱青苔色紙數行書

天承識寶
鴻昔三品

此詩題賓鴻トイフハ胡國ヨリ來ル鴈ヲ云。月令ニ鴻鴈賓ト云リ。賓ハミラウトナリ。題ノ心ハ空ノ清クハレタルニ。雁ノワタルヲ見ル心ナリ。上句空ノ色ノミドリナルニツラケル。鴈ハアラキ玉シテカサレル筆ノコトヲナシメニタテルニ似リト云ナリ。下句青苔色紙トハ青苔ト云。繪ノ具ニテツメタル紙ナリ。是モ天ノ淨キニタトフル也。數行書トハ鴈ヲ譬ルナリ。上ニ註セガ如シ。

雲衣范叔羈中贈風櫓瀟湘浪上舟

賓雁似故人 後中書王

此詩題心故人之故人也。胡國之行。秋來。雁ハサキ春ニヤコニリ。相知ル友人ニタトフルナリ。上句雲衣ハ雲ヲ衣ニ譬テイノ常ノ事ナリ。范叔ハ人ノ名ナリ。范睢字叔ト云人本ハ魏王ニツカヘシガ。後ニ秦ノ國ニウツリスミテ。秦ノ相トナレリ。彼國ノ大臣ナルベシ。魏王ヨリ須賈ト云人ヲ使ニテ。秦ノ國ニツカハタリケルニ。范叔ウスキ衣ヲキテ須賈ニミミヘタリケレバ。須賈イカニカクサムキサニミテハイニスゾトテ。梯袍ヲスキテトラセケリ。史記ニ見タリ。梯袍トハウヘノキヌナルベシ。今ノ心ハ賓雁ヲハ故人ニタトフ。雲ヲハ彼須賈ガ范叔ニヲクシリシ衣ニ譬見ナリ。下句風櫓トハ風ノ吹時ノ舟ノ櫓ナリ。瀟湘トハ處ノ名ナリ。楚屈原ガ澤畔ニ吟ミ時漁父舟ニリテ湘水ニテギキ來テ君ハ三閭大夫ニアラスヤ。イカテコミニ放タルゾト云事

思テ。瀟湘浪上舟トハ云ナリ。委ハ上紅葉ノ所ニアリ。心ハ雁江ウヘヲ鳴ワタル折シモ。舟ノ來トラ漁父ニタトフルナリ。漁父ハ屈原ガタノノ故人ナレハナリ

秋風よさうらりかきそまゝなるたがむづきとくもてまゝしんをの
右今集よまゝ自乃みみの家れうゝ合のふとあり。新撰万葉よ
あま風よさうらりかきとまゝ業雅云さうらりのさふまゝふるハ雅
傳乃むづきとくもてまゝしんと。原乃むづきとくもてまゝしんハ
風さうらりけし時原乃の足まゝとくもてまゝしんとくもてまゝしん
乃ある。何物物は秋風さうらりかきとくもてまゝしんとくもてまゝしんハ
くふ吹さうらりけしと。又秋思傳よまゝしんハ父のまゝしんとくも
はまてつらふ。波はまゝしんとくもてまゝしんとくもてまゝしんハ
ある。又原まゝしんとくもてまゝしんハ。原のたつとくもてまゝしんとくも
ともつら。まゝしんハ。つらとくもてまゝしんハ。つらとくもてまゝしんハ。

つとてありぬるれを。四季をとりて。昔は秋の。とふりて
歩世とく名付。そんあく。花をたさふと。つり。馬の花をさる
りぬる。木時をさる。て。つる。るる。

虫

切切暗窓下 嘤嘤深草裏 秋天思婦心 甫夜幽人耳

秋虫

季云此五言絶句也。文集十四ニアリ。切々ハ虫ノ類ニ鳴ナリ。皇甫
冉ガ詩ニ陰蛩切々不堪聞。嘤々ハ虫ノ吟ズル聲也。毛詩。蟋蟀
篇ニ嘤嘤。蟋蟀トアリ。暗窓下深草裏ナドニ虫ノ鳴ヲ聞テ。秋ノ空
哀ナルニ物思。女ノ心。又雨ノ夜ノ閑ナルニ幽居。荒人ノ耳。サコソ堪
かたかりケメト思ヤル心ナリ。文集ニ愁人耳トアリ。

霜草欲枯 虫思苦 風枝未定 鳥栖難

秋夜 獨坐見贈白

此詩文集二十三ニアリ。上句霜草ハ霜カレノ草ナリ。秋ノ末ニ臨
庭草ヤ、枯行テ。虫ノ思聲ニ顯テ悲心ナリ。下句風枝ハ風

ナビク枝ナリ。風ハゲレクシテ枝ヤスカラ子ハ鳥モ子グラシメ
カタシト云ナリ。上句ニヨリテ此篇ニ入タリ

床嫌短脚 蒼聲鬧壁 厭空鼠孔穿

秋夜野 相公

此詩上句ハ床ハアレ短キヲキラフ。其モトニ蒼ノ鳴ガイトミナク
テ。カミビスレクキコユルト云ナリ。床ノ足タニ高カリ。蒼ノ聲ハ
イマ少し遠カリナマシト云心ナリ。下句ハ壁ハナカノウツホニナルテ
ニ鼠ノアナヲウガテルコソニクケレト云心ナリ。風ナドノタマラスノ
寒キ心ナルベシ。毛詩ニ誰謂鼠無牙。何以穿我墉トアリ。此本文ニテ
ツクレル句ナリ。コレモ上句ニ依テ此篇ニ入タリ

山館雨時鳴 自暗野亭 風裏織猶寒

館 直轄

此詩上句山館ハ館ノ字ハタチトヨム。ヤカタツキテ作ル家ナル也
山館ニヤトレル時。夜雨ツカニ降タルニ。蒼ノ聲ホノカニ聞エタル心也
暗トハ夜ノ心ナリ。下句野亭ハ野ベノアラ屋ナリ。風ノ吹所ニ

蚕ノ聲ノスサミク聞ル心ナリ。織上ハ蚕ノ鳴コエハ夕ヲルニ似
ル故ナリ。寒トハ夜ノ心ナリ。夜ニ入ル必ズヒルヨリモ寒キ故ナリ

叢邊怨遠風聞暗壁底吟幽月色寒

同前題順

此詩心上句怨遠上ハ蚕ノ秋ヲ悲ム怨ニ聲ニアラハレタガホノカニ
聞元心ナリ。風聞上ハ風ニ夕グヒテキヨルナリ。下句蚕ハ夜寒ニ
ナルニ夕ガヒテ。壁ノ邊ニ鳴ナリ。詩幽風ニ七月在野八月在宇九
月在戸十月懸醉入我床下トアルコノ心ナリ。コノ詩モ風暗月寒
夜心ナリ

今古んと誰ぬれ先々ん秋のよをあしりつらむのわりのち
それぬの先々んとしたまふ給ふ先々んとあはれを給ふ
りりそへとありき乃らんをぬり
さりくもいそむを給ふ秋のよれあきさうらみハ我ぞまされつる素性
古今よハ何ぢよ人のをもとふやうけりつらむ秋さうらくもあはれ

けりや成ゆそよあつる。おる忠房と何り。秋のよをいふはあ
つらりよ。きりりくともハあきさうらふる物。秋乃秋のや。さむく成
よあきさういて。おるもあきさうらふるあり。あきれどもあきさうら
乃あきさうらひし。あきさうら。忠房ハ大武廣敏孫位階極也

副男

蒼苔路滑僧歸寺紅葉聲乾鹿在林

宿雲林寺 温庭筠

此詩上句蒼苔路滑上ハ山寺ノ路ノ岩根ノ苔ヲカクナメラカニテ。行
カフ人モマレタルサマナリ。下句ハ紅葉チリツモレル林ニ鹿ノソヨ音
ノカク聞元心ナリ。後惠ガ深クモ鹿ノソヨクナルカナトヨメル心也
温庭筠ハ本ノ各岐字ハ飛鷹。本中ノ末ニ書千餘言ヲタテマツリテ
方山尉ヲ授ラレ

暗遣食萍身色變更隨加草德風來

觀鎮西府獻白鹿詩 紀納言

緋ト同也

擣處曉秋蘭月冷裁將秋寄塞雲寒

風疎砧杵
鳴管驚茂

此詩題ハ秋ノ風ヤ、吹スサビタルニキヌタノヲト聞エタル心ナリ。上句
砧打テ曉カタニナリユクマ、ニ子ヤヲ照ス月影冷ニ孤婦ノ愁ヘ
ナグサムカタキナリ。下句蕪武漢ノ使トシテ胡ノ國ニ有テ年ヲ
へ之間其妻秋ゴトニ衣ヲ打テ蕪武歸來ラハキセント待シ心也
塞ハキタトヨム。胡塞ナリ。胡ノ國ノ雲ノ氣色スサミレクタナビキ
テ空サムカラフニ是ヲキセテレカナトオモヒヤル心ナリ。文選
詩云純素既已成君子行未歸裁用箚中少縫爲万里衣トアリ
篤茂ハ大内記藤繁茂ノ子
裁出遠迷長短製邊愁定不音腰圍

擣衣詩
直轄

此詩又擣衣ノ心ヲ賦セリ是モ遠塞ニアル男ヲ思フ女ノ衣ヲ打
テ待シ意ナリ。心ハ衣ヲハ裁出タレトモ長クヤアズ短クヤアラズ

云ナリ。製トハツクルトヨム。著物ニ調ズル事ナリ。邊愁トハ邊
土ニ井ル間ノ愁ナリ。腰圍トハコシノメグリナリ。ヒナノ愁ニ身
モヤセヌラフ。ソノカミノ腰ノメグリニハタガヒヌラント云ナリ

風底香飛雙袖舉月前杵怨兩眉低

擣衣詩後
中書王

此詩香飛トハ衣ウツ人ノ袖ガ風ニ隨テニホフ心ナリ。雙袖舉トハ二
人相向テウテハフタツノ袖ノカハルクアガルナリ。月ノクマナキニ
杵ノヲトモ怨ムハ物思ノユヘナレバ二人ノ眉タルト云ナリワ
ビレキニ六眉ノタルナリ文選擣衣詩微芳起兩袖トヤリ
年年別思秋雁夜夜幽聲到曉鷄

同前後
中書王

是モ同詩也。上句ワカレヒ人ノ爲ニ衣ヲウツ折シモ秋ノ鴈ノ
ワタレバ今年モ已ニ彼別ニ比ノ秋ニナリニケリト驚ク心ナリ年
ヲ重テカク思ハ年々別思トハ云ナリ。下句ハ夜々衣ヲウツ
コエノ鳥ナクミテタユニヌナリ。幽聲トハツカナル聲ヲ云或云

くろりあつらふふらう

冬夜

一盞寒燈雪外夜數盃温酎雪中春

和季中丞與李給事山居雪夜同宿小酌上白

此詩文集三十六三アリ。山居雪夜ノ夜ノサマナリ。上句ハ一盞燈光サハクニテ雲外ニ夜ニ遊ヒ居ルトナリ。山居ナハ雲外ノ夜ト云也。下句數盃ノアタメ酒ヲ吞ツルハ雪中ニモ春ヲムカヘタルコトナリ。スト云ナリ。

年光自向燈前盡客思唯從枕上生

冬夜獨起尊敬

此詩年光トハ年華トオナシ心ナリ。客思ハ旅人ノ思也。心ハ冬ノ夜ニ獨目サミレテ燈ニウチムカヒテ。ツクハト子ヲレ又枕ノ上ニ思ヒツクレバ。何ノナスワサモナク。今年モ末ニナリニナリトオモフヨリ。旅ノ悲ニサマシクニオコリ出タリト云ナリ。あつらふふらうのあつらふふらうの河クををちとらりり

拾遺冬影... 妹... 女... 心... 思... 旅... 人... 思... 也... 心... 冬... 夜... 獨... 目... サ... ミ... レ... テ... 燈... ニ... ウ... チ... ム... カ... ヒ... テ... ツ... ク... ハ... ト... 子... ヲ... レ... 又... 枕... ノ... 上... ニ... 思... ヒ... ツ... ク... レ... バ... 何... ノ... ナ... ス... ワ... サ... モ... ナ... ク... 今... 年... モ... 末... ニ... ナ... リ... ニ... ナ... リ... ト... オ... モ... フ... ヨ... リ... 旅... ノ... 悲... ニ... サ... マ... シ... ク... ニ... オ... コ... リ... 出... タ... リ... ト... 云... ナ... リ... あ... つ... ら... ふ... ふ... ら... う... の... 河... ク... を... を... ち... と... ら... り... り... 思... 也...

歲暮

寒流帶月澄如鏡夕吹和霜利似刀

江樓宴別

此詩文集十六ニアリ。寒流ハ冬ノ水也。月ニ映ノ鏡ヲミガチルヤウニ見ユナリ。夕吹ハ夕ノ風ナリ。和霜トハ一ツニナル心ナリ。似刀ハ夕霜寒キ風ノハケシク吹キテ回モムケガタキサマナリ。風雲易向人前暮歲月難從老底還。良春道

年月クシ辛クテ。吾身ノ老トナリキハミレリコノ老クフタヒ
君クナリテ。歲月ノ又龍ニカヘリカタキ歎キヲイハルナリ
此詩註ニ花下春トアリ。然而此句ハ歲暮ノ心アリ。故ニ此篇
入タルカ。目前ニクヌル心ヲ向人前暮ト云。老キハミリタルコト
ヲ老底ト云ナリ

ゆゑにこれとあるをみれば後乃の彩さへよくしねとあはれ
古今集冬巻木下柳のうさぎのあはれ彩さへよむねとありはと後
つぎはくしねとありをいひては葉尾のあはれひいては去たる
物なりし。葉雅もかたよみあり我彩さへよむねとありはよく
とこのあはれとあはれと也。ゆゑにふくしねとあはれとありは
心乃まはれと。まはれととては。後乃を思ひあはれと。又十日後
とてくたり。一ス乃うかんたり。げうふ六のあはれとありね

爐火

黄醕緑醕迎冬熟経帳紅爐逐夜開

戲招諸客

白

此詩文集三十三アリ。ミレ人ヲヨブ心ヲ作レリ。黄醕ハ濁レル
酒ナリ。緑醕ハ清ル酒ノ名ナリ。竹葉ト云是ナリ。迎冬熟ト折節
此ゴロ熟シタハ。アルシマウケ事タレリトナリ。経帳ハ絳字ハアカ
シト云。赤キ緋ヲ帳ニ垂ルナリ。紅爐ハ赤塗タル火爐也。又紅火
ノ色ヲ云ナリ。逐夜開トハ夜コトニ開キテ客ヲミナクトノ義也
看無野馬聽無鷺鷥臘裏風光被火迎
此詩題臘天上ハ漢ノ代二十二月ヲ臘ト名付タルナリ。シカ名名故
臘ハ獵ナリ。獵字ハガリナリ。ケタモノヲトルナリ。ハスニカリヲ
シテ獸ヲ得テ。先祖ノ靈ニマツルカ故ニ十二月ニカリト云名ヲ
付タルナリ。此詩ノ心ハ火ノ煖ナル故ニサナカラ春ノ如ク見テ遊
絲モナシ。聞ニ鷺ノ聲モセ子トモハスノ空ニカク春ノゴトクナハ
只炉火ノ故ナリト云ナリ。風光ハ春ノ風景也。文選卅云風光

草際浮翰註云風本无光也草上有光色風吹動之如風之有光
此火應鎖花樹取對來終夜有春情 三品

此上下同絶句是落句也此火之花木ヲキリテ出光火

ニテヤアラフ向ハ自春ノコチスルハト云ナリ木ヲキリテ火ヲ

取事八月今日有更火春取榆柳之火夏取桑杏之火季夏

取桑枯之火秋取柞楸之火冬取槐檀之火

多時縱醉鷺花下近日那離獸炭邊 春 輔昭

此詩獸炭トイフハケタモノスカタニツクヘルスニナリ羊豕ト云人

ケタモノ形ナル炭ヲタキテ木ニテツクヘル人形ニ酒瓶ヲ抱

テ其酒ヲ煖メサセテ客人ノ前ニ出テ興ヲ催シタリケル有

今心ハツ子ノ時ハ鷺花ヲ翫テ木ノモトニ日ヲクヲセトモ此比ノ

寒天ニ燼火邊ヲハナレガタト云ナリ

何處乃そふふふ 何處乃そふふふ 何處乃そふふふ 何處乃そふふふ

葉年の集伊勢物語集ふも及んばとて撰集もるりひ
乃こふんえゆるよどい集よあうハを分るゆべさハ衣
のころこほ火とあふふとけいとん花句のひあふ
ふとふあひとけいとんハカくいのちのちいとい
みくもくハ花とまきりてくるいといとるりし

霜

三秋岸雪花初白一夜林霜葉盡紅 般若寺別成 公温庭筠

此詩心三秋ハ九月也岸邊ニ雪ノ降ルハ花ノ始テ白クサキタル

ヲ見タルトナリ下句ハワツカニ一夜ノホド霜ノフリタルニ林

木葉ニナ紅葉シタリト云ナリ下句ニ依テ此篇ニ入タリ

萬物秋霜能壞色四時冬日最凋年 歲晚旅 白

此詩文集十五ニアリ註ニ旅望トハ旅ニテノ詠メナリ上句ワツノ

物ハ皆秋ノ霜ニ依テ色ヲ變ズル心ナリ下句ハ四季ノ中ニ冬ヲホ

ムルトニテアルト云ナリ。年已盡シ意ナリ。又草木ヲホス心也
閨寒夢散馬或添孤婦之砧上山深感動先侵四皓之鬢青還女

司霜賦 此賦題三青女青女之青腰青腰之玉女霜玉女霜ヲツカサドレ神ナリ

紀納言 淮南子ニアリ淮南子上句孤婦孤婦トハヤモメナリ。霜霜フリテアヒトリアヒトリ寢ノ子ヤ寒

夢覺夢覺タルニ冬ニナリヌトテ衣衣ヲウテハ砧砧ニ霜霜ノ置添置添トナリ。下句

四皓四皓ノ事下卷ノ雲雲題ノ處處ニアリ。漢ノ世漢ノ世ニ四皓四皓ノカシラカシラ白キ翁白キ翁

ナリ。心ハ深山深山ノ中ニ霜霜ノフルハコトニ四皓四皓ガ鬢鬢ヲヨクヨククシヌト

感動感動クト云ナリ。感ト云ハスベテキモニソム事ヲ云リ

君子夜深聲不警早霜老翁年晚鬢相敬丞相

此詩文章ノ四ニアリ。君子ハ鶴鶴ノ名ナリ。鶴鶴ハ鳥ノ中ニ心心ユクシテ

君子ニ似タル故ナリ。小人ハ心心急ナリ。君子ハ心心緩也。心心ハ霜霜ノフリ

又ハ鶴鶴イタミテ不啼不啼ト云也。霜霜ニ鶴鶴ノ聲聲セヌコト。上ノ月ノ註註ニアリ

下句ヨヒタケタル人ハ霜霜ノフルヲ見テ吾鬢吾鬢モシカト思思ニ敬敬云

夜深テトイヒ相敬トイフニテ早霜ノ心アルナリ

聲聲已断花亭鶴寒露凝霜歩歩初驚菅三品葛履人

此詩寒露凝霜寒露凝霜皮皮心心ヲ賦賦セリ。露霜露霜ハ陰陽陰陽ノ氣也。陰氣勝則凝

而為霜ト大戴禮大戴禮ニアリ。又詩秦風秦風白露為霜トモ見タリ。上句花

亭鶴亭鶴ノ事上ノ月ノ題題ニアリ。霜霜ノハ鶴鶴イタミテナカズ故故ニ聲聲々々已

断ト云ナリ。或云霜霜ノフルヲ鶴鶴ニナシテカク云也。霜霜花亭鶴

似タルトモ。聲聲ハ断断テナシトイヘリ。下句葛履葛履トハ葛葛ニテクヌル履也

毛詩毛詩ニ糾糾々々葛履葛履可以履霜トアリ。夏夏ハ葛履葛履冬冬ハ皮履皮履ナレトモ魏

國ノ俗國ノ俗ハ冬冬モ葛履葛履ノクツヲハキテ霜霜ヲフムナリ。毛詩毛詩註註ニ見タリ

然然ハ歩歩ムニ隨隨テ葛履葛履ノ履履ノヒヤハカナルニ。霜霜ノフリタルホドヲ云ナリ

晨積瓦溝同前題鷺變色夜寒紀納言華表鶴吞聲

此詩題此詩題ハ上ニ同同上句ニ瓦溝瓦溝トハカラアキノヤ子ヤ子ノミナリ。鷺鷺ニ

瓦瓦ト云ハ瓦瓦ヲオシテ形形ニシタルヲ云ト云リ。又魏魏文帝文帝夢夢ニ殿屋殿屋ノ

瓦地ニオチテ雙フタハルニ死シ鴛鴦ウヰトナルト見ミ玉タマレ事コト魏志ウヰシニアリ。然シカハ
瓦イハフキキノ上ノ霜シユフリヌレハハ死シ鴛鴦ウヰノ色イロヲ變カヒシニ似ニリト云ク也。文集ニ云
死シ鴛鴦ウヰ瓦イハ冷シ霜シユ花ハ重シ云ク。下句ノ華表ウヰ上ノハ是レモ遼城ウヰノ華表ウヰニ鶴ツルノ井イタリ
ニ事コトナリ。心ココロハ華表ウヰニ霜シユノ降ツタレバ鶴ツルノ聲コエヲノミテナカヌト云クナリ
也。と云フとねがめてまげををうごくるもいもあへどおやとく
拾シ遺ウヰ集ニ乃ハくく人ヒトあつどもいささういもあつとくハハ死シ鴛鴦ウヰ乃ハく
毛ケ乃ハおとまういささういささういもあつとくハハ死シ鴛鴦ウヰ乃ハく
さあつとくハハ死シ鴛鴦ウヰ乃ハく
うさあつとくハハ死シ鴛鴦ウヰ乃ハく

曉入梁王之苑雪滿群山夜登庾公之樓月明千里

謝觀

此賦ニ白クキ事コトヲアツメテ作シナリ。上句ノ梁王ウヰトハ梁ウヰノ孝ウヰ王ウヰナリ。漢武ウヰ
帝ウヰノ親ウヰ王ウヰ也。彼王ウヰ雪ウヰノ朝ウヰハ鄉ウヰ生ウヰ牧ウヰ叟ウヰナト云クヲ。老ウヰ人ウヰヲ將ウヰイテ。苑ウヰ

菌ウヰ上ノ云ク所ノニイタリ。ミレテ。雪ウヰヲ翫ウヰ給ウヰレナリ。文ウヰ選ウヰ雪ウヰ賦ウヰ註ウヰニ見ウヰル
群ウヰ山ウヰトハ諸ウヰ山ウヰト云ク也。意ウヰハ曉ウヰ苑ウヰ菌ウヰニ入ウヰテミウヰハヨウヰモノ山ウヰニ雪ウヰフリ滿ウヰテ
點ウヰアル心ウヰナリ。或ウヰ云ク梁ウヰ王ウヰ苑ウヰ内ウヰニ終ウヰ布ウヰ山ウヰ五ウヰ臺ウヰ山ウヰナトサウヰレノ名ウヰ
タカキ山ウヰトモノ形ウヰヲツキ山ウヰニツキテ見ウヰ玉ウヰヒレナリ。サテ雪ウヰ滿ウヰ群ウヰ
山ウヰト云クナリ。下句ノ庾ウヰ公ウヰトハ庾ウヰ亮ウヰナリ。彼人ウヰ南ウヰ樓ウヰニホリテ月ウヰヲ
見ウヰレナリ。上ノ註ウヰス。スベテ心ウヰハ群ウヰ山ウヰニ雪ウヰツモリ。千里ウヰ三月ウヰサカリニ
彼ウヰモ此ウヰモ白クク見ウヰレ意ウヰナリ

銀河沙漲三千界梅嶺花排一萬株

雪中即

此詩文集ニ二十三ニアリ。雪中ウヰ即ウヰ古詩ウヰナリ。銀河ウヰトハ天ウヰノ河ウヰナリ
心ウヰ雪ウヰノフルハハノ河ウヰノ沙ウヰノ三千ウヰ界ウヰニチキリオツルニ似ウヰリト云ク也。
漲ウヰト急ウヰ流ウヰルナリ。下句ノ是レモ雪ウヰフリタルヲ梅ウヰ嶺ウヰニ万ウヰ株ウヰノ梅ウヰノ
サキタルカトオボト云クナリ。三千ウヰ界ウヰノ下ウヰ卷ウヰニ委ウヰ
雪ウヰ似ウヰ鵝ウヰ毛ウヰ飛ウヰ散ウヰ乱ウヰ人ウヰ被ウヰ鶴ウヰ筆ウヰ立ウヰ徘徊ウヰ

此詩文集三十三三三アリ。鵝ハ鳥ノ名ナリ。其鳥目ハ青ク毛ハ白
ハシトアリトハ赤也。雪ノフルハ鵝毛ノチリミダレタルニ似タリトイ
ナリ。鶴警ハ鶴ノ毛ナリ。王恭ト云シ人。鶴警ヲ被テ雪ヲ涉テ
行シテ子血祖ト云人見テ。是真ノ神仙中人也ト云レコト本傳ニ
アリ。擡之トセリ徘徊トハタチモトヲルトヨメリ

或逐風不返如振群鶴之手亦當晴猶殘疑綴衆狐之脰春雪

賦紀 此賦文粹第一ニアリ。上句逐風不返ハ春雪ノ風ニ隨テ

トビユク心ナリ。群鶴ハムラカヒルツルナリ。彼雪ノ飛コト鶴ノムラト
リノ毛ヲ振ニ似タリト云ナリ。下句晴テ殘雪ヲミハ諸ノキツ子
ノ脰毛ノ裘ヲツヅルカト覺テ云リ。狐ノ脰ハ白キ故也。孟嘗君ト
云シ人。狐ノ脰皮ヲツヅリテカハキヌヲ作レリ。是ヲ狐白裘ト云フ
史記ニ見エタリ。此裘ヲキツルハ万ノ病悉クイテナリ。此裘ヲ
秦昭王ニ奉レリ

翅似得群栖浦鶴、應乘興掉舟人

池上初雪 村上御製

此詩ハ天曆ノ御時神泉苑ノ池ニ行幸アリテ雪御覽シケル時
作ラセ玉ヘル御製ナリ。上句雪フル時ハ浦ニスム鶴ノ數ノソヒユク
カト見ユ意ナリ。是ハ池ニアル浦ナリ。群ヲ得ハムラカヒル友ヲ得
ト云心ナリ。下句ハ此神泉ノ池ノ雪ヲミル心ハ興アサカラスレテ古
王子猷ガ雪ノ夜ニ舟ニ乗テ安道ヲ尋テ如ナルトナリ。王子猷ト
云シ人。山陰ト云所ニ住ケリ。初雪晴タリケル夜。月アキラカナル
妻戸ヲ押開テ酒ヲ飲テ四方ニ望ムハイツカタモ皓然ト白ク
イトオモシロカリケレバ。何トナクタヌミテ。尤思ガ招隱ノ詩ヲ詠
ケルニイト興オサヘガタクシテ。アハレモノ心得タラン友ト是ヲナ
ガメバヤト思フニ戴安道ト云友タチノ。剡剡ト云所ニ居タリケル
ヲ思出テ。ヤカテ舟ニ乗テ河ニソヒテ下リ行ケリ。戴安道ガ門
近クナルホトニ。アヒナク夜ノホクトアケタリケレバ。行モツカズレテ

其ミ、カリニケリ。人イカニト問ケレハ興ニ乘ヒテコ、ニイタレリ。夜
アケ興ツキヌ。何ソ必シモ戴安道ニミエトゾ云ケル。蒙求ニ見タリ

村上天皇ハ延喜ノ皇子天曆ノ帝是ナリ
立於庭上頭為鶴坐在爐邊手不龜客舍對

此詩文章四ニアリ註ニ客舍ト旅ノ家ナリ。上句雪ノケル時庭ニ立

テル人ハ頭鶴ノヤウニ白クナリヌト云ナリ。下句爐火ノ邊ニイタレハ

雪フリ寒ケレドモ手モカニラスト云ナリ。手不龜ハ莊子蒙人有

手不龜藥トイヘリ。コレヲ本文ニテツクラセ玉ヘリ

班女閨中秋扇色楚王臺上夜琴聲題雪

此詩上句班女ト班婕妤也團雪ノ扇詩作りニ入ナリ。上ニ見

タリ。然ハ雪ノ色ハ彼班女カ扇ニ似タリ。閨中ハ羨入ハ常ニ紅閨

中ニ有テ。タマスク出子バナリ。下句ハ楚王臺ノ上ニテ彈琴。廻雪

嘯トイヘリ。詩心ハ雪ノメクリヒルカハルアリサ。楚王琴ノ曲ニ似タリ

トイフナリ

お少くめぼくくみふゆき乃よりけり山よりふたつあま

けうふれうりよきるひの雪は事回らる心とそて後う

あまてハ秋のけりし雪乃よりけり山よりふたつあま

ていやくよりけり雪よりけり山よりふたつあま

よりハ雪をよきくまらるる心とそて後う

雪とよきる。深き山とありけり。あまてけりけり山よりふたつあま

よりけり山より雪やあまんとけり。あまはむねのまらるる心とそて

昔船山よりけりやとく雪れよりけり山とありけりやりあまの心と源

意ゆき大荒大捕着えの子あまの心とそて

みりけり山より雪つとけり山よりけり山よりけり山よりけり

古今詞をよきるの意はゆきけりけり山よりけり山よりけり山よりけり

とありけり雪はゆきけりけり山よりけり山よりけり山よりけり

右乃きくまりまらるるハ。一乃山よ宮傍つらるしと
 雪ふれむとふ花をさねくつらつと梅と日とをわらひしを
 右今雪れつらるるをえとくつらつと梅と日とをわらひしを
 本毎と日けくつらるとつらふふふふふ。只一本乃雪れ
 ぬれむ梅と梅とつらるとつらふふふふ。梅と日とを
 し本毎と花乃さねてさねぬむつらと梅と日とをわらひ
 ちつら。本毎と梅とつらふふふふふとつらふふふふ
 けつら。上下つらあひてあ代の人つらあ代つらあ代
 本毎とつらあ代つらあ代つらあ代つらあ代つらあ代
 あまきと梅傍つらあ代つらあ代つらあ代つらあ代

氷付春氷

氷封水面無浪雪點林頭見有花

臘月獨興

此詩文革一ニアリ。心上句水ノオモニ氷トチツレハ浪ノヲトタエヌト

云。下句コス丑ニ雪フリカ、リテ花カト見ユト也。此詩ハ管丞相

御年十四ニテ作ラセ玉ヘル詩也

霜妨鶴唳寒無露水結狐疑薄有氷

狐疑氷聞波聲相如

此詩鶴唳ハツルノナキナリ霜フハ聲ヲノミナキハ故ニ鶴ノナキ
 妨ト云ナリ寒无露ハ疑テ霜ト成ヌレハツツナト云ナリ。上ニ註不
 カゴト下句後漢書云滹陀河氷結狐疑不渡云狐疑ハキツ子
 ウタガヒ也狐ハコホリレヌレハ河ノニキハニヨリテ聞ナリ。水ノ聲キコユ
 レハ氷ノスレトナリテワタラス水ノ音キコエ子ハアツレト知テ渡ル
 ナリコレヲ狐疑ト云

おれをくろののきくまらるるハ。一乃山よ宮傍つらるしと
 雪ふれむとふ花をさねくつらつと梅と日とをわらひしを
 右今雪れつらるるをえとくつらつと梅と日とをわらひしを
 本毎と日けくつらるとつらふふふふふ。只一本乃雪れ
 ぬれむ梅と梅とつらるとつらふふふふ。梅と日とを
 し本毎と花乃さねてさねぬむつらと梅と日とをわらひ
 ちつら。本毎と梅とつらふふふふふとつらふふふふ
 けつら。上下つらあひてあ代の人つらあ代つらあ代
 本毎とつらあ代つらあ代つらあ代つらあ代つらあ代
 あまきと梅傍つらあ代つらあ代つらあ代つらあ代

こゝろとつり。ふねふ映しつゝいふはよきありのかりろき
がゆきつとつり。ふねふ映しつゝいふはよきありのかりろき
はふまゝのつり。ふねふ映しつゝいふはよきありのかりろき

春水

冰消見水多於地雪霽望山盡入樓

早春憶遊思
黯南莊白

此詩文集三十四アリ。題ノ思黙人ノ名也。上句春水開テ庭モ三
水ノタヘタル地ヨリ多シト云ナリ。下句ハ雪ケノ雲ハレテ山ヲ見ハ
近ク見ユラ樓ニ入ルヤウニオホユト云ナリ。是思黙ガ南莊ノ景氣ヲ
ホメテイヒヤレルナリ

木消漢主應疑霸雪盡梁王不召枚

早春雪水
消ス尊敬

此詩上句漢主ハ後漢ノ光武皇帝高祖九世ノ孫ナリ。時ニ三
トイヒモノアリ。尤武ヲカタフケトス。光武南ニオチテ曲陽ト
云所ニ至テ滹陀トイフ河ヲワタラトス。津吏申サク河水

ケハタシテ舟ナレ渡リ玉フコトアタハシト申シケル。聞モノオソレヲ
ノキケリ。帝王霸王ノ元白ト云レ人ヲ召テ。河ヲ見セ給フ。行テ見
ハハコトニ余ナリ。爰ニ霸オモクアリ。ミニ申サハ君ノ御心モウレ
玉ヒ諸人モ皆オドロキナントテ。偽ニウサク。水堅クトチテワタリ
侍ルニ歎キマウス事ナカレ。爰ニ君モ臣モ皆ヨロコビヲナス。サテ河
ノ邊ニ至レ比ホヒ。コトニ氷厚ク結ビテ。人モ帝モ皆渡テ。王莽ガ
難ヲゾ。道ニケル。東歡漢記ニアリ。今ハ氷消ヌレハ漢皇霸ガコトハ
ウレヌラク。疑ヒ玉ヒト云ナリ。下句梁王ハ孝王ナリ。枚ハ枚叟ナリ
梁王雪ノ朝枚叟ヲ召テ共ニ雪ヲモテアソビ玉ヒシ事ナリ。上ニ註
先ガ如シ。今ハ雪ミナ消ヌレハ梁王今ハ枚叟ヲ召事モアラハト云也
胡塞誰能全使節。虜陀還恐失臣忠。
雪消水亦
解相規

ラレテ年月ヲ送リノ間、エヒス食物ヲアタヘスレテ、澤ノホトリニ
 羊ヲカハセリ、此人ノ賢愚ヲ見ントナリ。燕武雪ト旃毛トヲ合せ
 喰テ命ヲ持タリケレハ、此人カレコト云テ命ヲタナザリケリ
 サテ終ニ十九年ヲ経テ、還リニイリニケリ。漢書ニ見タリ。今意
 雪キエツキヌハ食物ナリ。誰カ胡塞ニ使節ヲ全ク持ントナリ、使
 節上漢ノツカヒタルニシケレハ、父ニレナリ。下句水トケタル心ナリ。水
 コトぐクトケヌハ、卑陀ニ臣ノ忠ヲウレナヒテ、還テ詐偽ノモノニ處
 セラレナントオソル、心ナリ。是モ王霸ガ古事ナリ。相規ハ式部太輔
 肥前守源氏圓融院御宇ノ人ナリ

やまのけのこゝろもよき風よかすのふらふらやとくらん惟心
 みまごもままごわるとし只あのみまごわらふ事におねもあ風斜少
 りてこわらふはあ 續後拾遺集に藤原女侍のあ合乃許山河
 のこもままごわらふ風よかす乃少はとけはなるともとありとく

平遙盛のこゝろあはれよや。惟心へ中納言兼捕の男、刑部口は
 信下

麩 麩 聲 牙 米 皸 聲 聲 脆 龍 頷 珠 投 顆 顆 寒

雪化ノ爲 麩ト菅

此詩菅家後集ニアリ。上句麩牙ハ白米ナリ。麩ハ鹿ノ類ナリ、其
 牙白クテ白米ニ似名也。心ハアラレノタバヒルハ、麩牙米ヲヒルヤウニ
 見元ト云ナリ。聲々脆トハアラレノ聲ノモロクキコユナリ。下ノ句
 龍頷トハ龍ノヲトガヒナリ。龍ハ如意寶珠ヲモタルヲ極テ重キ
 寶トスルナリ。莊子云、有人投淵、忽逢龍、取頷下珠。云、今心麩
 フル龍頷玉ヲ投シ、似タリト云リ。顆々トハ玉ノカズナリ。寒トハ
 アラレノ玉ナハ、數フルゴトニサムレト云ナリ

こゝろあはれよわらふはあ ねこもままごわらふ風よかす乃少はとけはなるともとあり

古今集才九卷六之所のこゝろの勢ゆる。業推云乞ハ祓

系乃庭火のうきこ。和心乃まきたのうきう乃まづきをねむ。海心
うきうふあゝるき乃うきうきうきうきうきうきうきうきうきう
一系禪院乃梁蔭を葉抄よ。葉乃うきうきうきうきうきうきうきう
火の神れくうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう
らせきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう
ととととととととととととととととととととととととととととととと
けうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう

佛名

十二月二万三千佛ノ畫佛像ヲ安置シテ其佛名ヲ
唱テ六根ノ罪ヲ滅スルコトナリ。元興寺ノ靜安律師承
和年中ニ勅ヲウケタマハリテ國家ノタメニ佛名ヲ礼
拜シ始テ内裏ニ行ヒ漸ク天下ニ遍クセシヨレ貞觀格有

香火一爐燈一盞白頭夜禮佛名經

此詩文集二十五アリ。此句ハ老僧ノ佛名經ヨミ并タルアリサマ

香自禪心無用火花開合掌不因春

藏上悔會作
管丞相

フアソクニニイルナリ。一爐ノ香ヲタキ一盞ノ燈ヲカ、ゲテ
白頭ノ老比丘ノ夜ナク佛名經ヲ礼シタルサマ哀ナル心ナリ
此詩文章四ニアリ。仁和四年ノ冬讓岐任國ニテ懺悔會ノ時ノ
長篇ノ詩ナリ。心今備ル所ノ香ハ吾禪心ノ火ヲ用ユナハヨツテ
火ヲ用ル事ナレ。花ハ吾合掌スナハチ花ナレ。春ニモヨラストナリ。但
文章ニ香出善心トアリ。下句モ不興春トアルナリ。或云管丞相
佛名會ヲ我室ニテオコナヒタマハントテ西塔ノ清涼寺ノ玄昭律
師ヲ請ジタマヒケルニ供具ニ香花ナド入ヘク候其支度ハ候ハスヤト
申給ヒケル。御返事ニ此詩ヲ作テ送ラタリシナド、云ハ文章ヲ見
ヌ人ノ憶説ナルベシ。懺悔會ハ年中ノ罪ヲ懺悔スル心ニテ佛名會
ヲイフナリ

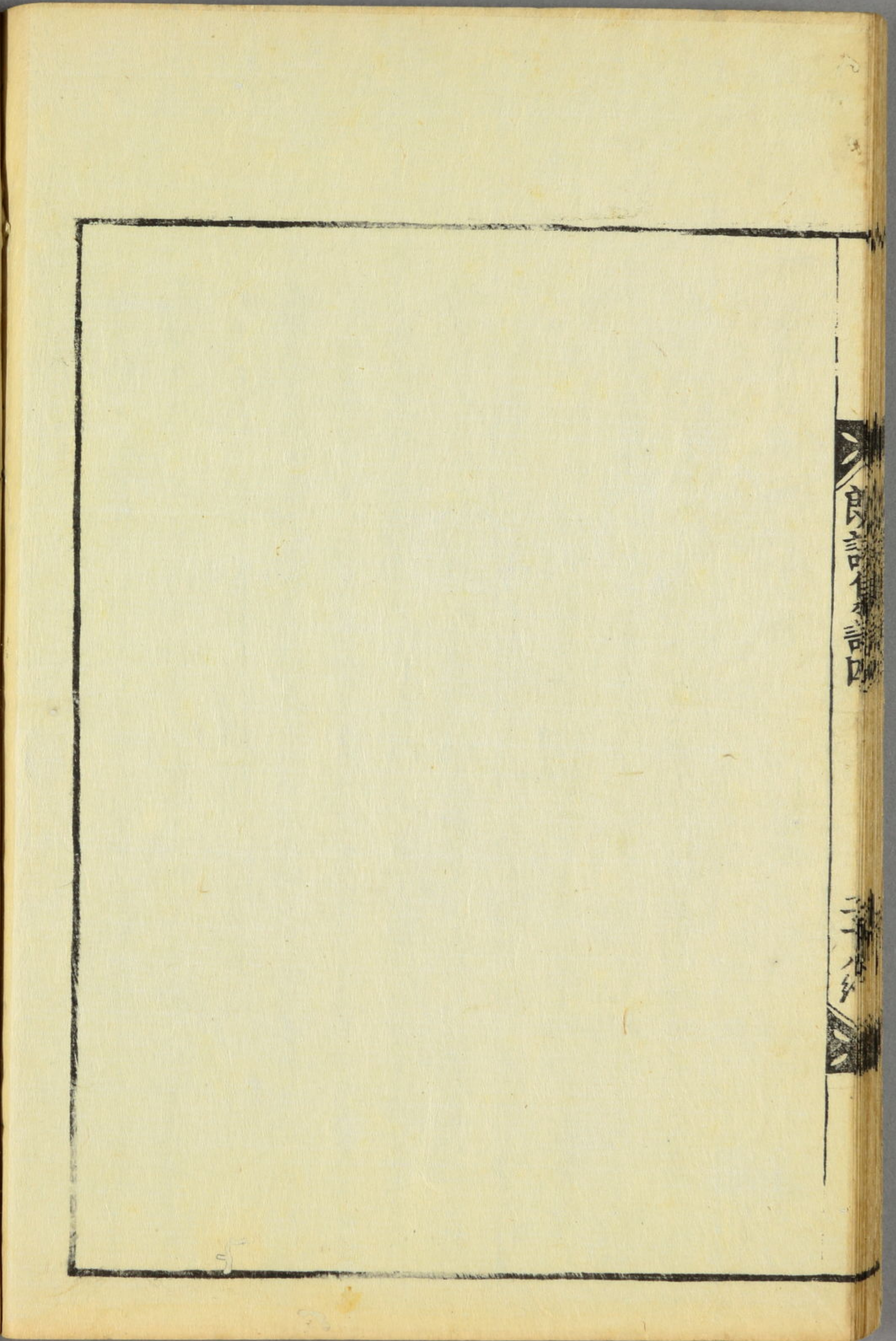
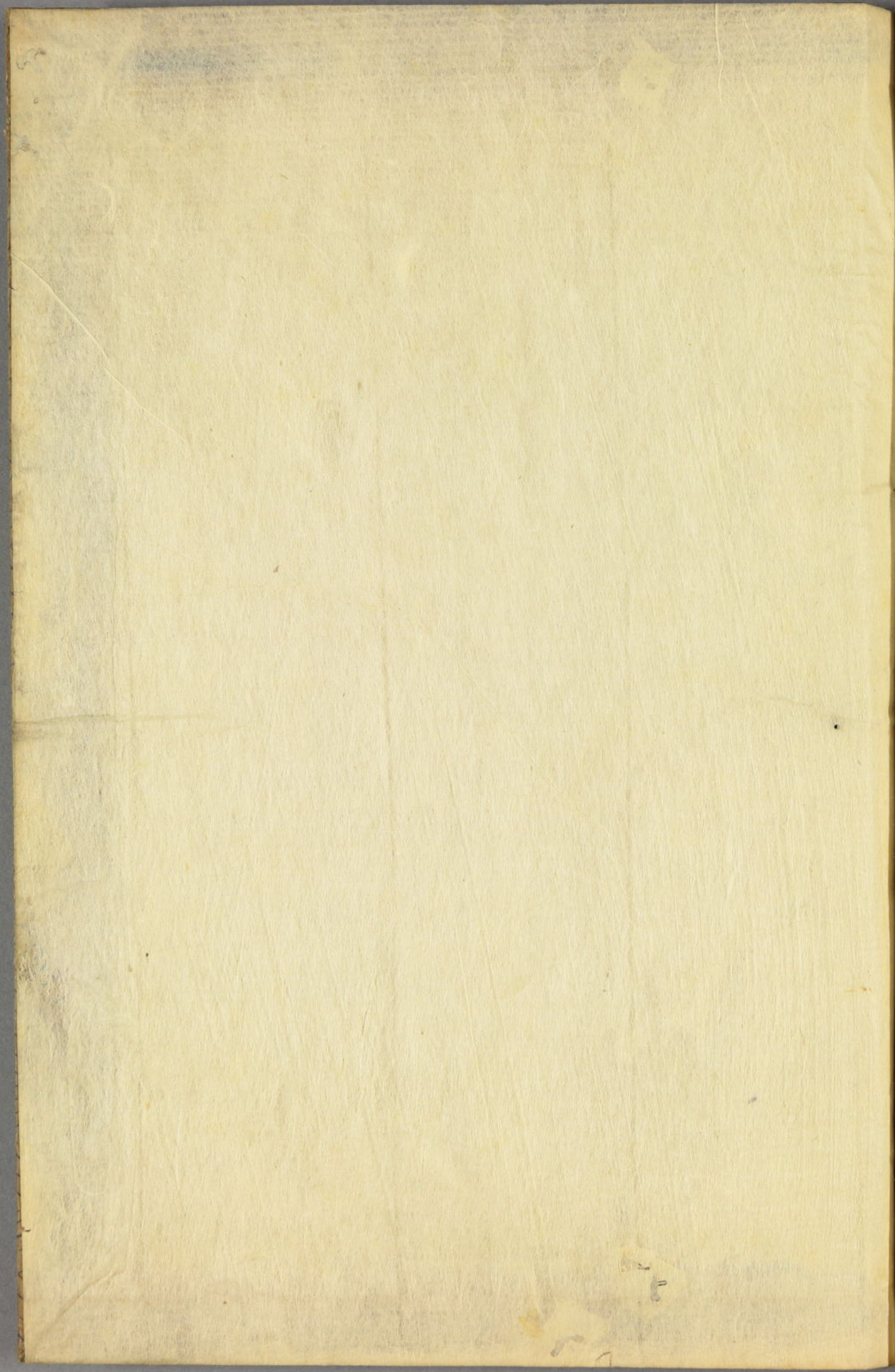
あゝむろもくられをいつらりはつともゆらむとぬやあはん蓋

あつたまゝのまことひんけい^{ヒンケイ}。春^{ハル}夢^{ユメ}抄^{セウ}はけのぼつ^{ボツ}つゝもこのまこと
むとつ。此^{コノ}名^ナ懺悔^{センケ}乃^ハなりき。此^{コノ}名^ナをも三^ミ世^セに^ニけ^テか^シと^スら^レて
ら^レ振^リ乃^ハ罪^{ツミ}を滅^メする事^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}不^レ信^{シン}家^カも^シお^シや^ス事^{ナリ}な^レ
む^シも^シと^ス業^{ギョウ}あ^ハる^{コト}ひ^トして^テ罪^{ツミ}を^レの^トひ^キつ^テま^ハる^{コト}ひ^トの^ト
お^シや^ス事^{ナリ}に^トも^シる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ家^カと^シて^テあり^テて^は
い^クこ^トう^なれ^ルゆ^ゝべ^ニ調^テ縁^縁も^ハ此^{コノ}名^ナの^トあ^ハり^{入^リる}こ^トう^なら^レる^{コト}
十二^{ジウニ}月^{ゲツ}を^レ此^{コノ}名^ナを^レお^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
た^テて^テり^しひ^ト人^{ヒト}を^レお^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
名^ナの^ト通^ツす^{コト}の^トあり^しこ^トう^なら^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
ゆ^ゝべ^ニ。お^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
お^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
乃^ハ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}あり^しわ^レを^レ此^{コノ}名^ナを^レ地^チ獄^{ゴク}乃^ハ法^{ポフ}の^トお^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}

と^スら^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
う^レり^しや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
あり^しこ^トう^なら^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
生^ク集^{ジュウ}も^シ毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
お^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
拾^{シウ}集^{ジュウ}よ^シ毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
つ^レら^レる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
罪^{ツミ}も^ハ此^{コノ}名^ナの^ト切^キ極^{ゲク}も^ハ皆^{ミナ}滅^メせ^ルも^ハの^トん^ハり^し
下^カ知^チ乃^ハる^{コト}ひ^トの^トま^ハる^{コト}。毎^{トシ}年^ニ十二^{ジウニ}月^{ゲツ}此^{コノ}名^ナを^レ
此^{コノ}名^ナの^ト事^{コト}ハ^レる^{コト}に^シて^テ心^{シン}を^レお^シや^ス事^{ナリ}な^レる^{コト}
入^リる^{コト}

和漢朗詠集註卷第四

月末集註四



良言集

三十一

